

コミュニティ・スクールの進捗状況について

1 上総小櫃中学校区コミュニティ・スクールの進捗状況について

(1) 上総小櫃中学校区コミュニティ・スクール説明会について

①教職員対象の説明会について

- ・ 6月22日（木）に上総小櫃中学校、小櫃小学校、上総小学校3校の教職員を対象にリモートで説明会を実施した。

②保護者、地域住民対象の説明会について

- ・ 9月19日（水）小櫃公民館、8名
- ・ 9月20日（木）上総公民館、参加者9名
- ・ 9月27日（火）松丘コミュニティセンター、参加者4名
- ・ 9月28日（水）亀山コミュニティセンター、参加者6名

③説明会における意見の概要

(ア) コミュニティ・スクールへの期待

- ・人口減少と高齢化が急速に進む上総小櫃中学校区で、他の地域にない特色のある教育環境をつくるのが、この地域の未来に明るい希望を見出す要素の一つになるのではないか。
- ・意図的に小中学校を拠点に子どもと大人、地域間の交流の場づくりを進めることで、子どもたちと地域のかかわりを取り戻すことや各地区の融和を図ることにつながるのではないか。
- ・子どもたちのためにいろいろな視点で地域の力を学校に注いでいく取り組みとなり、教員の働き方改革にもつながるのではないか。

(イ) コミュニティ・スクールへの疑問、意見等

- ・学校統合の際には、地域への十分な説明の機会がもたれなかった。地域とともにある学校づくりはこの地域にとっても重要なテーマであるため、教育委員会全体でかかわる体制を整え、十分に地域の理解を得ながら実施してほしい。
- ・今回の説明会にほとんど保護者世代の参加がなくて残念である。
- ・地域と学校で新たな組織体制づくりを進めるにあたって、既存の団体やボランティアとのかかわり方、それぞれの活動の調整などにどのように取り組んでいくのかが課題である。

2 上総小櫃中学校区コミュニティ・スクール推進委員会について

(1) 推進委員会概要

学校運営協議会の仕組みづくりや運営等に関する検討を行うために、各地区住民及び学校長、公民館長17名で組織する推進委員会を立ち上げ、10月10日(火)に第1回会議、12月13日(水)に第2回会議を実施した。

(2) 第1回推進委員会における意見の概要

- ・コミュニティ・スクールの円滑な導入を目指すうえで、学校の現状や学校と各地域でこれまで取り組んできた活動の整理が必要ではないか。
- ・教員も多忙であり、学校や子どもを取り巻く問題への対応は厳しい状況にある。各地区の意見や要望などを学校づくりに反映させるには、すり合わせができる場や機会が必要であることから、コミュニティ・スクールの取り組みに期待したい。
- ・子どもや保護者はそれほど「地区」を問題と捉えておらず、そこにこだわりを持っているのは高齢者世代ではないかと考えている。これからは小櫃から亀山まで一つの地域として捉えることが重要で、コミュニティ・スクールを通じて、地域の捉え方を変えていけるような取り組みにつながると良い。

3 今後の予定

(1) コミュニティ・スクール推進委員会

- ・1月、3月実施予定

(2) 学校運営協議会

- ・令和6年4月 上総小櫃中学校区学校運営協議会 導入予定

令和5年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属:生涯学習文化課

分 類	君津中央公民館 課題解決学習推進事業
事業名称	人権問題学習講座「子どもの小さなサイン、気付いていますか？」
実施日(期間)	9月27日(水) 午後2時から4時まで
目 的 ・ ね ら い	子どもが直面している困難な状況(=生きづらさ)をテーマに、生きづらさを抱える子どものサインに気づき、どのように寄り添うことができるのかについて考え、子ども一人ひとりの価値を見出す大人の役割について、市民、教職員、行政職員それぞれの立場から学び合う機会として実施する。 君津中央公民館、学校人権教育研究協議会共催
対 象	市民、教職員
回 数 ・ 延べ参加人数	1回、30名
周 知 方 法	広報きみつ、君津市公式LINE
事業概要	講師：認定NPO法人PIECES代表 小澤いぶき氏 (1) 講師による講話 子どもの周りにはたくさんの「大人」や「支援者」がいて、「支援の場」もあるはずなのに、多くの子どもたちが孤立感を抱いているのはなぜかという問いから、子どもの小さなサインに気づき、大人がどのように寄り添うことができるのかについてロールプレイングを交えながら学習した。 (2) グループワーク 市民、教職員でグループをつくり、講義の感想やこれからの私たちの行動について話し合った。「子どもが子どもでいられること、“ありのままでいいんだ”と子ども自身が思えるような環境を整えることが大人の役割だと思いました。」「子どもにとって、身近な大人と言えば、近所の地域の人か教師くらい。地域の大人も、アンテナを高く『いつも子どもたちを気にかけているよ』という声かけや態度が取れるようになったらいい」などの感想があった。
成果・課題	成果 子どもを取り巻く人権課題をテーマに、市民、教職員が共に学び合うことのできる貴重な機会となっている。また、事前の企画段階から、教職員と連携しテーマ選定にあたることができおり、教職員の課題意識に基づく研修機会になっていることが成果である。 課題 市民の参加者が教職員と比較すると少なく、市民への周知や学習テーマ選定に課題が残る。日常的な市民とのコミュニケーションの中で、学習ニーズや課題意識を聞き取るなど対応を図る必要がある。

令和5年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属： 生涯学習文化課

分 類	文化財活用事業
事業名称	「長板中形」プレ展示・講演会
実施日(期間)	令和5年11月18日、11月19日
目 的 ・ ね ら い	市内の文化財を広く市民へ周知し、文化財保護に対する理解の促進や郷土に対する誇りや愛着心を育むことをめざす。今回は、久留里城址資料館企画展「長板中形-松原伸生の伝統と展開-」と連携し、より多くの市民に知っていただけるよう、プレ展示・講演会を実施する。
対 象	一般市民など
回 数 ・ 延べ参加人数	プレ展示：見学者394人（11月18日276人、11月19日118人） 講演会：150人（11月18日150人）
周 知 方 法	広報きみつ、HP、房総ファミリア新聞等
事業概要	「長板中形」は江戸時代から伝わる型染の一種で、型紙を用いた伝統的な染色技法である。令和5年10月18日、文部科学省は「長板中形」を重要無形文化財に指定し、その技術の保持者（いわゆる人間国宝）として市内在住の松原伸生氏が認定された。この事業は、令和元年度実施予定であったが、9月の房総半島台風による市域の被災、以後はコロナ禍により延期としていた。今年度実施で準備していたところ、人間国宝認定のニュースが重なったの開催となった。 【講演会】（会場：君津市立中央図書館視聴覚室） 「現代（いま）に伝える長板中形」 講師：松原 伸生氏 【プレ展示】（会場：君津市立中央図書館1階ギャラリー） 資料館企画展の展示資料の一部を先行展示 記録映像「長板中形 松原伸生の技」上映
成果・課題	成果 ・「長板中形」や松原氏について、今回の人間国宝認定の報道等で知って展示・講演会に参加した方も多く、広く周知することができた。 ・中央図書館会場では、交通事情等で久留里城址資料館には行けないという方にも、作品等を見学していただく機会となった。 ・プレ展示等から資料館企画展をPRし、より多くの方に資料館にも行っていただくきっかけとなった。 課題 ・展示資料にもよるが、博物館ではない公共施設での展示は、温湿度や照度管理ができないこと、露出展示の場合は紛失・破損対策の監視員（職員）の配置という課題があり、開催期間は短期になる等限界がある。

令和5年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属:君津中央公民館

分 類	コミュニティ活性化事業
事業名称	第59回君津中央公民館文化祭 特別企画「100の縁を見つけよう～みんなでつくる“ご近助”縁日～」
実施日(期間)	11月2日(祝日・金曜日)
目的・ねらい	この地域に暮らしている・関わっている一人ひとりの「知恵・力・技」を分かちあって、この地域の人たちの力を一緒に高めあっていくことをめざし、みんなの力で作る、年に一度の「お祭り」を目指すため、文化祭を開催する。 今年度の特別企画は、「縁」をキーワードに「人と人、人とこのまち」のつながりを“広げる・創る”きっかけとなる行事を実施する。
対 象	市民
回数・延べ参加人数	1回、来館者779人、ボランティアスタッフ約50人、出演者40人
周知方法	自治会回覧、ホームページ・SNS、駅跨線橋チラシ掲示、関係機関チラシ配付等
事業概要	(1) お囃子披露 ホール舞台にて地域団体によるお囃子などを開催。 ・郡春日神社祭囃子保存会 ・御霊神社中野太鼓連 ・大宮神社久保祭保存会若駒会 (2) 「ご近所縁日」(ミニ露店ごっこブース) 子どもには楽しく、大人には懐かしい「村祭りの縁日」を2階フロアに再現。特別企画ボランティア、中学生や高校生年齢層などのボランティアや地域団体・福祉関連施設等の運営によるミニ夜店を実施する。 (3) フードバンク (4) ご近所ネットワーク再発見 地域の祭りの紹介やサークルの紹介ポスターを展示  【準備会議の様子】 
成果・課題	成果 ・来館者からの感謝の声など多数あり、行事の趣旨には理解を得られたものと考えられる。 ・ボランティア、地元祭保存会など多くの人とつながり、テーマである「縁」探し、つながりづくりを達成することができた。 課題 ・想定外に来館者が多く、時間と会場が限られていたため混雑状況があり、安全管理面で課題があった。 ・ボランティアに「ロコミ当日飛び入り」があり、内容や説明などの点で課題が残った。

令和5年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属： 八重原公民館

分 類	コミュニティ活性化事業
事業名称	第27回八重原地区ふれあい文化祭
実施日(期間)	令和5年11月11日(土)・12日(日)
目的・ねらい	地域住民、学校等、公民館利用者及び主催事業参加者の学習・文化・スポーツ活動の発表・交流の場として開催し、地域文化の発展と地域づくりに寄与する。
対 象	地域住民等
回数・延べ参加人数	1回 約2,400人
周知方法	自治会回覧、ポスター掲示
事業概要	メインテーマ「輝け八重原！はばたけ未来へ！」、サブテーマ「新たな絆心ふれあう文化祭」を掲げ、開催した。 ◆作品展示・活動紹介〔参加団体25〕 サークル、地域内幼・保・小・中・特支の作品展示、自主事業活動紹介 ◆催し物〔参加団体8〕 ◆音楽・芸能発表〔参加団体24〕 ◆映像発表〔参加団体17〕 コモンスペースにてモニターで上映 ◆その他 探訪クロスワードクイズ「めぐりマス」、 消防団車両展示 
成果・課題	成果 サークル・団体活動支援、発表・催し物への参加が難しいサークルの参加を保障するために昨年から実施している、映像発表に引き続き力を入れるとともに、作品展示を依頼する保育園の枠を広げる、各展示サークルによる体験会の実施など、より参加者と来館者との交流を広げることを目指した結果、すべての部門で参加団体が昨年を上回り、多くの来館者に好評を得た。 課題 館内を周遊しながらヒントを探し、解いていくクロスワードクイズ「めぐりマス」では、参加者とサークル関係者との交流が昨年よりも深まり、両者から好評を得たが、終了後の反省として、ヒントの出し方や、掲示場所・方法などについて、さらなる工夫が必要との声があった。 また、展示部門での体験コーナーについては、サークルごとに開催時間を割り振り、交代で実施したが、想定以上の参加者によって時間が足りなくなるという嬉しい悲鳴が聞かれ、実施場所、時間などについて、次年度以降の開催では、改善を検討することとした。

令和5年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属：周西公民館

分 類	青年事業
事業名称	みんなのともかつ
実施日(期間)	令和5年6月～令和6年3月
目的・ねらい	「婚活」の手前の「友活」として、異性・同性の区別なく仲間づくりができる場とする。また、対象年齢を25歳～50歳前後に限定し、普段公民館になじみの薄い層が公民館を知る機会とする。
対 象	男性：25歳～50歳前後の独身で君津市内在住または在勤 女性：25歳～50歳前後の独身の方（居住地は問わない）各10名程度
回数・延べ参加人数	6回 うち4回実施済み、申込者33人、のべ参加者40人（運営スタッフは除く）
周知方法	周西公民館地区内自治会回覧、広報きみつ、市ホームページ、ソーシャルメディアで配信など
事業概要	・昨年10月から新規に開設し、昨年度は3回の講座を実施。 ・今年度は6月から3月までの計6回、基本的に土曜日の14時～16時（移動学習のため12/2のみ9時～16時）で計画している。 ・今年度のテーマは「ひとりじゃやらないことをやる」。 ・②紅茶と④バスの回は、トーク内容の補助になるように「プロフィールシート」を準備し、参加者同士が円滑に交流を図れるよう工夫した。 ①6/24 みんなでモルック(9人) ②8/26 紅茶×トーク(11人) ③10/14 絵本×涙活(9人) ④12/2 バス×紅葉(11人) ⑤2/10 瞑想、⑥3/30 お花見   【紅茶×トーク】 【バス×紅葉】
成果・課題	成果 ・はじめて公民館事業に参加した方が多いため、新たな利用者層にアプローチができています。女性の参加者は比較的少ないが、同性でも同じ趣味で話が広がる場面も見られ、新しいつながりづくりに寄与できている。 ・今年度から参加者のグループラインを作成したところ、個別に連絡を取ったり、自主的な集まりを呼びかけるといった動きも出てきている。 ・広報や自治会配布よりもLINEなどSNSによる周知に効果がある。 課題 ・地区内の申込みや女性の参加者が1～2割程度であり少ない。 ・申込をしてきても連絡がつかない、キャンセル連絡もなく当日も参加しない、という方もいるため、当日の対応に苦慮することがある。 ・支援者から「引きこもりの方などが社会復帰の一助として参加するのは可能か」と問い合わせがあり、多様な参加者の受け入れ方に課題がある。

令和5年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属：周南公民館

分 類	コミュニティ活性化事業
事業名称	周南と周南公民館のこれからを見つめるアンケート(周南公民館開館 50 周年記念事業)
実施日(期間)	令和5年3月16日(木)から令和5年5月8日(月)(配布期間)
目 的 ・ ね ら い	開館 50 周年の節目に当たり、地域住民への意識や生活実態に合わせた調査を行い、地域の課題を課題や要望を明らかにし、周南公民館の今後の運理や事業にて活用を図る。 ※令和5年6月28日で開館50年を迎えた。
対 象	周南地区住民及び公民館利用者
回 数 ・ 延べ参加人数	総回答数 320(用紙による回答 205、インターネットによる回答 115)
周 知 方 法	自治会回覧によるアンケートの每户配布、公民館だよりによる周知、小中学校を通じてのチラシ配布、公民館内掲示、ホームページによる周知等
事業概要	○これからの公民館事業と新たな公民館建設の礎となるよう、またコロナ禍において地域と公民館が離れつつある中、改めて地域の方が考えている課題意識やその生活背景などを探るため、アンケートを実施した ○設問設定に当たっては、開館 40 周年時に実施した住民アンケートとの比較も踏まえながら、周年実行委員と一緒に取り組んだ。 ○アンケート実施の際には自治会長会議に出向き説明したほか、小中学校へもアンケートについてのチラシを配布した。 ○回答結果については、第 50 回周南地区文化祭の特別展示で公開。現在編集中の開館 50 周年記念誌にて最終的な考察を入れた報告を掲載する。 「周南と周南公民館のこれからを見つめるアンケート」にご協力ください! 周南地区と周南公民館が、地域の皆さんにとってより良い地域・居場所となっていくために、上記アンケートを実施します。どなたでも回答できますので、たくさんのご意見をお寄せください。 ■回答期間：令和5年3月16日(木)～5月8日(月) ■回答方法：インターネット及びアンケート用紙にて回答できます。 *インターネットで回答する場合 右の QR コードをスマートフォンで読み取るか、君津市公式ホームページ内の周南公民館のページから回答することができます。 *アンケート用紙で回答する場合 公民館窓口にてアンケート用紙を配布しています。また 4 月 6 日(木)の自治会回覧にて、各世帯に用紙を配布します(用紙の提出方法はアンケート用紙をご覧ください)。 
成果・課題	成果 10 代～90 代までと数のばらつきはあったものの地域の生の声を集めることができた、今後の公民館運営を考える上で貴重な材料を得ることが出来た。またアンケート結果は公運審での協議や「周南子どもサミット」での事前学習にも活用することが出来た。 課題 回収したアンケートをどのように公民館事業に活かして行くのか、スピード感をもって館運営に反映させていくことが必要である。また結果を地区内の団体とも共有していくことも併せて必要である。

令和5年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属：小糸公民館

分 類	課題解決学習推進事業、人権教育推進事業
事業名称	教育講演会『“困った子”は“困っている子”』
実施日(期間)	令和5年11月4日(土) 午前10時から正午まで ※午前9時から9時45分まで障害者就労継続支援施設による頒布会を実施
目的・ねらい	就学前から思春期まで子どもの健やかな成長のために、特別支援教育の視点から、個に応じた理解と支援について学ぶ機会とする。
対 象	どなたでも
回数・延べ参加人数	講演会：一般98名、保育児9名 頒布会：約束の樹(クラフト作品、着物リメイク作品)、ためき工房(革小物)
周知方法	広報きみつ、君津市HP・メール・LINE、自治会回覧、ポスター、チラシ等
事業概要	講師：北村 博幸氏／北海道教育大学函館校キャンパス長・特別支援教育士スーパーバイザー ①発達障害について(LD・ADHD・ASDの特性、発達障害の偉人紹介等) ②長所を伸ばす(個人間差と個人内差、継次処理と同時処理、アプローチの仕方等) ③事例(生育歴や学校での様子、具体的な支援策、視点を変えて短所も長所に等) ～以下、参加者からの感想～ 「全身で伝えてくれた顕著な事例、レジュメに沿ったユニークな解説、終始楽しく明解で印象に残る講演会でした。」「最初から最後まで楽しくおもしろくあつという間の時間でした。第2弾、第3弾を開催してほしいです。」「これまで子育てで悩み、数々の講演会に参加したり著書で勉強したりしてきましたが、一番感銘を受けました。ここまで惹きつけられた講師は初めてです。」「君津市でこんなに素晴らしい講演が聴けて感謝しています。講演前の障害者施設による販売もよかったです。素敵なおみやげ付きの1日になりました。」「土曜日開催でありがたかったです。小学校教員ですが、子どもの見方、支援の仕方が広がりました。これからの子どもとのかかわりに役立てたいです。」「教員ですが、発達障害の特性について、こんなに具体的に聞けることはないので貴重でした。“困った子”と捉えると支援はうまくいかない！肝に銘じます。」
成果・課題	【成果】 ・満足93%、やや満足7%と100%の方から好評をいただいた。(N=87) ・教員や保育士の方にも多くご参加いただき、定員を大きく上回る盛況ぶりで、発達障害や特別支援教育に対するニーズの高さが伺えた。 ・講演会前に実施した障害者就労継続支援施設の頒布会は参加者からも出店者からも好評で、遅刻防止の観点からも効果が見られた。 【課題】 ・講演会終了後に、園長から他の研修での講演希望があったほか、教員や保育士、発達障害のお子さんを抱えるご家族から個別相談依頼が複数あり、継続した学び・個別支援へ課題がある。



令和5年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属：清和公民館

分 類	地域団体支援事業
事業名称	(1) 清和の魅力探訪ウォーク (2) 「清和の魅力探訪ウォークガイドブック」編集・発行
実施日(期間)	(1) 11月25日(土) 9時から12時30分
目 的 ・ ね ら い	公民館と地域団体、地域団体相互の連携を図ることにより、地域コミュニティの維持に寄与する。また、清和地区外の人を参加対象とすることで、関係人口の拡大を図る。
対 象	(1) 小学生以上 30名程度
回 数 ・ 延べ参加人数	(1) 1回、47人(運営スタッフ8名含む)
周 知 方 法	清和地区内自治会回覧、広報きみつ11月号掲載
事業概要	(1) 秋元城跡の講義、現地ウォーキング 共催：NPO 法人いきいき清和、清和公民館 (2) 本事業は平成28年より開始し、8年間で10回の実施を終えた。清和地区全21自治会をコースとした10回分をガイドブックにまとめることで、清和地区の魅力を市内外へ発信し、清和をはじめ君津市全体の活性化を図る。 備考：市民が主役のまちづくり事業支援制度補助金を活用 
成果・課題	成果 ・回を重ねるごとに参加者が増え、本事業が清和地区内に浸透してきたと同時に、地域外からの参加者やリピーターも増え満足度の高い事業となっている。 ・本事業実施により、NPO 法人や体育協会との連携を深めることができた。こうした連携、関係性の構築によりガイドブック発行へとつながった。 課題 ・運営する地域団体の後継者・担い手が不足しているため、本事業を今後どのように維持していくか、またガイドブックの活用について懸念される。

令和5年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属： 小櫃公民館

分 類	課題解決学習推進事業
事業名称	「小櫃まるごと博物館」構想事業
実施日(期間)	令和4年4月～
目的・ねらい	本事業は、小櫃・上総地区公民館運営審議会意見書『『子ども、若者、高齢者など、誰もが地域で暮らし続けられるふるさとづくりに寄与する公民館事業』の実現に向けて』（平成31年3月）を踏まえ、小櫃地区に点在する史跡や伝説（伝承）、支援、生活文化等の地域資源をもとに、丸ごと博物館にするいわゆる「エコミュージアム」実現のためのものである。これまで小櫃地区で取り組まれている地域学習講座「小櫃学」、住民主体の長谷川ホテル谷フェスタ、おしゃべりウォークなどを基盤にしながら、ICTを活用することでオンラインとオフラインを有機的に結び付け、君津市総合計画に掲げる各種施策への実現を図る（市民ともにつくるまちづくり、地域コミュニティの活性化、新たな拠点づくり観光資源の磨き上げ）。これにより、小櫃地区住民（元住民も含む）にとって郷土への誇りと愛着をもてる取り組みとする。
対 象	主に小櫃地区住民
回数・延べ参加人数	構想運営会議3回（うち1回はフィールドワーク含む）
周知方法	HP、君津市公式YouTube
事業概要	小櫃学での学習成果をはじめ各種地域資源に関して映像化しアーカイブ資料としての保存・蓄積を図る（君津市公式YouTubeを活用）とともに、史跡付近の案内看板に映像（または関連HP）にアクセスできるQRコード表示を設置することで、オンラインとオフラインをつなぐ仕掛けを行う。 ※これまで動画配信したもの 「白山神社の神楽」、「賀恵渚の大注連縄づくり」、「西原の虫送り」など
成果・課題	成果 開設初年度の令和4年度は実施体制の構築と事業周知に重点を置いた。当初は実施体制について、構想推進員のみで想定していたが、参加者からの意見を踏まえ、実働的な構想運営員を設ける体制とした。また、構想推進員の方から、大型ディスプレイなど機材をご提供いただき、館内での上映環境が向上した。事業周知については、昨年度の文化祭特別企画として取り上げたことで、多くの住民の方の目に留まる機会を創出することができた。今年度も継続して上映中である。 課題 昨年度は実働体となる構想運営会議の開催時期が遅くなってしまったため、担当職員中心の実施となってしまったことを踏まえ、今年度は構想運営員との一体的推進に注力



令和4年度からスタート！ 地域をまるごと博物館に

小櫃地域にある史跡や名所、生活文化、自然など
様々な地域資源を映像に記録し活用する事業が
「**小櫃まるごと博物館**」構想事業です。

構想推進員を 募集しています

- 小櫃まるごと博物館構想の推進役となる「構想推進員」を随時募集しています。
- 定期的に地域資源に関する情報交換をしながら調査や記録活動をしています。
- 地域のことを学びたい、小櫃の価値を広めたい、映像記録や動画編集に興味がある方はぜひご協力ください。

構想推進員のお申込み
構想事業のお問合せ先

主催 君津市小櫃公民館

君津市末吉128

☎0439-35-2488

✉obitsu-k@city.kimitsu.lg.jp

◎記録した映像は、君津市公式
YouTube チャンネルで配信
していきます。

◎現地の案内看板などから映像
にアクセスできる仕組みをつ
くっていくことで、地域を散策
しながら小櫃の魅力と価値を
再発見し、発信していけること
を期待しています。

映像撮影や記録 にご協力ください

- 地域ごとに行われている祭礼
や行事など、動画撮影にご協力
いただける方(団体の代表や関
係者など)は、小櫃公民館まで
ご連絡をお願いします。
- 台風被害やコロナ禍の影響を
受ける前の動画や写真提供で
も構いません。

小櫃まるごと博物館



令和5年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属： 上総公民館

分 類	課題解決学習推進事業
事業名称	地域住民交流教室
実施日(期間)	8月18日(金)、10月25日(水)、1月25日(木)
目的・ねらい	地域の身近な人権課題について学習し、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが生き生きと安心して生活できるまちづくりを目指す。地域性を考慮しながら人権に関するテーマを設定し、様々な手法で学び、考え合う機会を設ける。 現代的な人権課題について現状の理解とその背景について理解する。また、集会所を活用し、地域住民の交流の拠点づくりを進める。
対 象	一般成人 各回20名程度
回数・延べ参加人数	全3回(うち2回実施) 延べ22人参加
周知方法	自治会回覧、市ホームページ
事業概要	第1回 8月18日(金)「今、改めて同和問題を考える」 講師：坂井 康人氏(千葉県人権センター会員) (大変満足だった：8名 まあ満足だった：3名 どちらでもない：2名) 第2回 10月25日(水)「性別の多様性と人権」 講師：高橋 富美代氏(千葉地方法務局木更津支局総務課長) (満足：2名 やや満足：4名) (予定)第3回 1月25日(木)「障害のある人と人権」 講師：芳賀 茂氏(アビリティーズジャスコ木更津センター 管理者)
成果・課題	成果 第1回は同和問題を改めて歴史的視点から紐解いていただき、分かりやすい講話をいただいた。今後も同和問題に対する正しい理解を促進するための機会を作っていきたい。 第2回は性別の多様性について、法整備の動向を中心に、分かりやすい講話をいただいた。 課題 参加者数の減少と題材探しの難しさ

令和 5 年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属： 中央図書館

分 類	中央図書館読書推進事業
事 業 名 称	ちゃいるどたいむ
実施日(期間)	令和 5 年 9 月～ ※令和 5 年 8 月に夏のイベントとして実施
目 的 ・ ね ら い	乳幼児や配慮の必要な子どもを持つ家庭が、気兼ねなく図書館へ来館し、幼少期から本に触れ、親子むきかけをつくることにより、図書館の利用促進を図るとともに、子育て支援の一助とする。 なお、「ちゃいるどたいむ」は、図書館の開館時間内での実施を検討しているため、周知期間を設け、子連れ以外の利用者にも理解を求め、誰もが利用しやすい図書館を目指す。
対 象	乳幼児や配慮の必要な子どもを持つ家庭
回 数 ・ 延べ参加人数	毎週木曜日 10 時から正午 計 13 回（令和 5 年 11 月末時点）
周 知 方 法	(1) 広報きみつ、こどもとしゃかん日より (2) 市ホームページ、母子手帳アプリ「つみき」 (3) 図書館ホームページ、館内掲示、チラシ配布（市内保育施設・公民館・図書館）
事 業 概 要	午前 10 時から正午までの時間帯を幼い子どもとその家族が気兼ねなく安心して図書館を利用できる時間帯とする。
成 果 ・ 課 題	成果 ちゃいるどたいむ実施時間中、こどもとしゃかん内のカーペットを敷いたスペースでくつろぐ親子が見られている。また、毎月第 2・第 4 木曜日に実施する親子向けの定例行事「わらべうたの時間」「おひぎにだっこの絵本の時間」には、わらべうたの時間で平均して毎回 15 名ほどの親子が参加しており、利用促進につながっていると感じられた。 課題 配慮の必要な子どものいる家庭は平日の日中に図書館を利用することが難しい。気軽に来館できる日程を検討するとともに、周知を図る必要がある。



令和5年9月からスタート！

ちゃいるど たいむ



日時：毎週木曜日 午前10時から正午
場所：中央図書館 こどもとしゃかん

～ちゃいるどたいむって？～

「子どもが騒いでしまうから……」

「静かな場所でうちの子が急に泣き出したらどうしよう」と心配されている方が、気兼ねなくご来館いただける時間です。

いつもよりちょっとにぎやかになっても大丈夫。

お子さんと一緒に図書館でゆったりとお過ごしください♪

※託児サービスではありません

～利用者みなさまへおねがい～

ちゃいるどたいむ中は、通常より館内がにぎやかになってしまうことがあります。
温かく見守っていただけますよう
ご理解とご協力をお願いいたします。



問い合わせ先：君津市立中央図書館 0439 (52) 4646

令和5年度各社会教育機関の特徴的な取組

所属：久留里城址資料館

分 類	博物館普及事業
事業名称	資料館講座「古文書講座 初級編」
実施日(期間)	令和5年5月27日、6月10日、24日、7月8日
目的・ねらい	君津市域に残された史料をもとに、古文書の基本的な読解法歩の習得をめざす。歴史には興味があるものの、これまで古文書に接したことのない初心者に向けてのもので、読む力を身につけていくなかで、郷土の歴史に対する関心を高め、地域史料の重要性を理解する機会とする。
対 象	一般市民など
回数・延べ参加人数	4回 103人（1回目26人、2回目26人、3回目26人、4回目25人）
周知方法	広報きみつ、HP、房総ファミリア新聞
事業概要	久留里大谷に残された史料「大谷区有文書」（館寄託資料）をテキストに、古文書・くずし字の基礎を学ぶとともに、史料から江戸時代の大谷村の様相を読み解いた。 講師：職員 協力：雨城古文書同好会 第1回「古文書とは何か」 第2回「数字から見る江戸時代の村」 第3回「江戸時代の村の支配のしくみ」 第4回「江戸時代の村の姿を読み解く」 
成果・課題	成果 ・ただくずし字を追うだけではなく、身近な地域（大谷村）の人口・地勢・自治・水利など、史料から当時の様相を読み解く中で、地域資料の重要性を認識できるよう努めた。アンケートでは「身近な村が対象で…もっと知りたくなった」「地区の歴史やその時代の農業の様子がわかって大変おもしろい」などの回答を得た。 ・近年は講座の講師を「雨城古文書同好会」の熟達した会員が務めていたので、講師が職員に代わるのは市民参加・地域活性の意味で逆行してみえるが、今年度は特に継続的な学習の促進や、講座の運営面で同好会と連携を深めることができた。 ・初心者に開かれた講座を意識し、アンケートでは「初級からのスタートで良かった」「（内容から）興味が高まった」などの回答を得た。 課題 ・館収蔵の地域資料で日の目を見ないものも多くあり、資料の情報発信など、講座以外での活用方法も検討する必要がある。 ・参加者の年齢層に偏りがあり、多くの世代に開かれ、参加しやすく興味を持てる工夫が必要である。

清和地域拠点複合施設 おらがわ

人がつどいい、にぎわいが生まれる、新たな地域の拠点

資料3

清和地域市民センター

- 月曜日から金曜日（祝日、12月29日から1月3日を除く）
午前8時30分から午後5時15分
- 戸籍の届出（出生届・婚姻届・離婚届・死亡届など）
 - 住民異動（住所変更・世帯変更）
 - 各種証明書の交付申請（住民票の写し・戸籍謄抄本など）
 - その他届出及び申請書の受付
 - 市役所本庁舎と直接対話できる個室ブースあり（要予約）

- ☐ 利用方法
☐ 利用料金
☐ 連絡先

予約等の必要はありません。
各種証明書発行手数料 など
電話 0439-29-7537
E-mail seiwa-g@city.kimitsu.lg.jp

清和地域活性化センター

- 月曜日から日曜日（祝日、12月28日から1月4日を除く）
午前9時00分から午後10時00分（日曜の閉館は午後5時00分）
- 清和地域が抱える課題にきめ細かく対応していくために必要な事業
 - 清和地域の関係人口の創出及び拡大に繋がる事業
 - 清和地域の地域活性化に繋がる事業
 - 清和地域の特性を活かした起業の支援に関する事業
 - 施設を利用に供すること

- ☐ 利用方法

コワーキングスペース 使用者登録をして使用申請
ワークスペース 使用者を公募し審査等の後、決定します
交流スペース 使用者を公募し審査等の後、決定します
コワーキングスペース 1時間150円（5時間以上一律750円）
ワークスペース 月額52,500円
交流スペース 月額56,250円
電話 0439-29-7537
E-mail seiwa-g@city.kimitsu.lg.jp

- ☐ 利用料金

- ☐ 連絡先

清和公民館

- 月曜日から日曜日（祝日、12月28日から1月4日を除く）
午前9時00分から午後10時00分（日曜の閉館は午後5時00分）
- 定期講座の開催
 - 討論会、講習会、講演会、実習会、展示会等の開催
 - 図書、記録、模型、資料等を備え、その利用に供すること
 - 体育、レクリエーション等に関する集会を開催
 - 各種の団体、機関等の連絡
 - 施設を住民の集会その他の公共的利用に供すること

- ☐ 利用方法

電話、窓口などで、希望日時空き状況を確認し、
利用日の6か月前から1週間前までに、
公民館使用許可申請書を提出してください。
施設予約システムの利用もできます。
原則無料です。目的外使用の場合は有料です。
電話 0439-32-1350
E-mail seiwa-k@city.kimitsu.lg.jp

- ☐ 利用料金

- ☐ 連絡先

清和こども園

- 幼稚園 月曜日から金曜日（土日、祝日、長期休業期間、千葉県民の日を除く）
保育園 月曜日から土曜日（日曜、祝日、年末年始を除く）
午前7時00分から午後7時00分まで
- 就学前のこどもに幼児教育・保育を提供する
 - 子育て相談や親子の集いの場の提供等地域における子育て支援を行う
 - 一時保育を行う

- ☐ 利用方法

- ☐ 利用料金

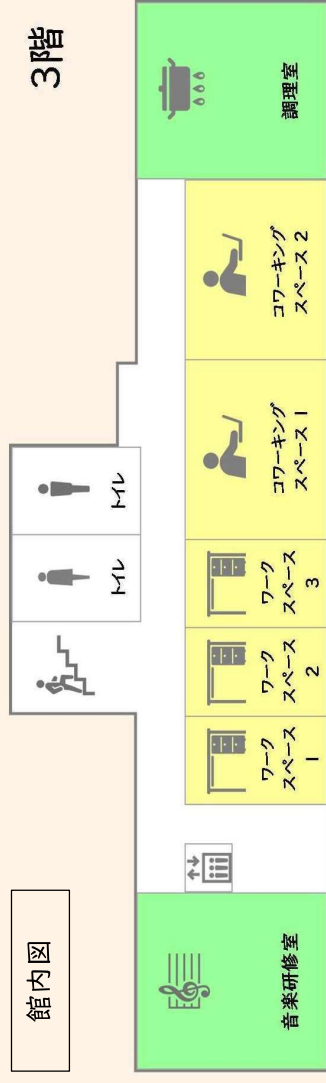
- ☐ 連絡先

入園を希望する月の締切日までに入園申請書類を提出して
ください。申請に基づいて市が利用調整を行い、入園の可否
を決定します。
保育料及び給食費など
電話 保育園 0439-56-1528
E-mail hoiku@city.kimitsu.lg.jp

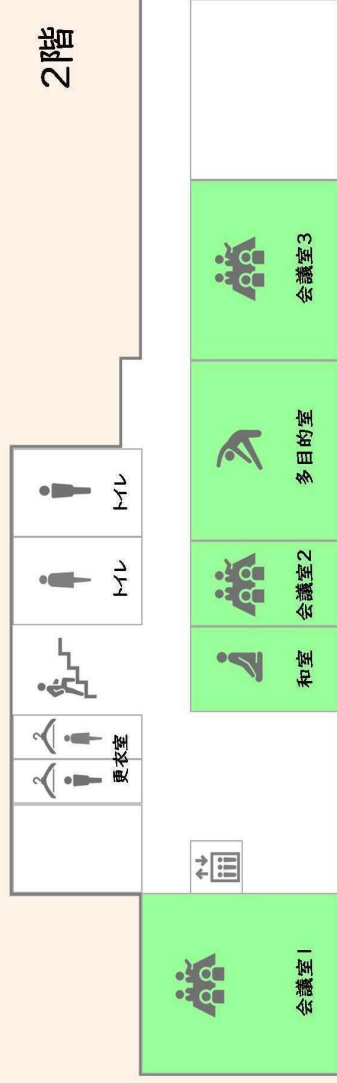
清和地域拠点複合施設 おらがわ

- 清和地域市民センター
- 清和公民館
- 清和地域活性化センター
- 清和こども園

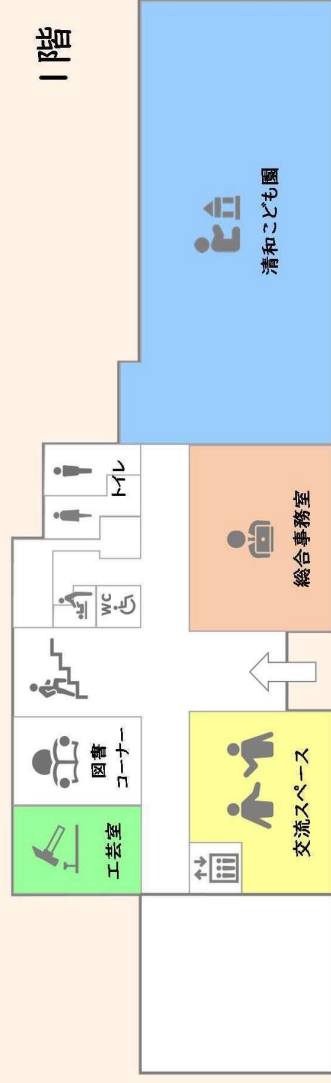
館内図



2階

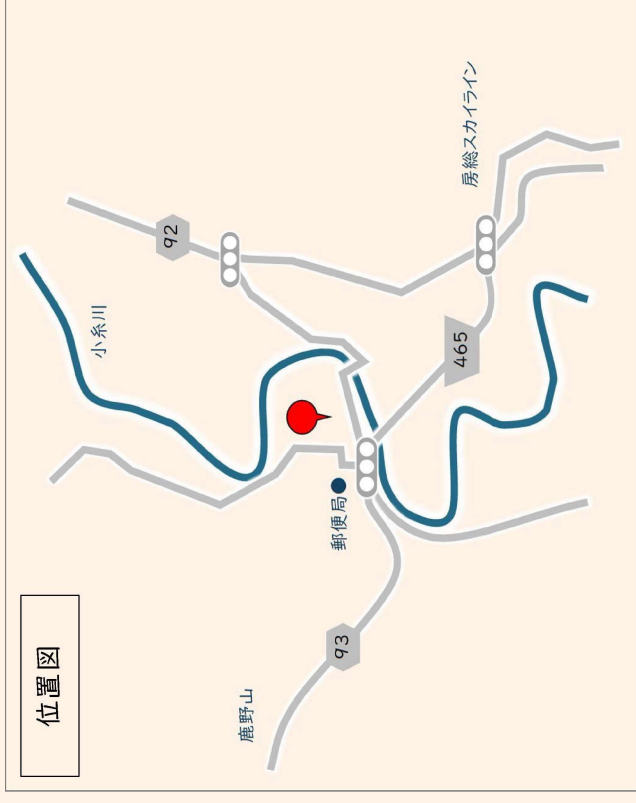


1階

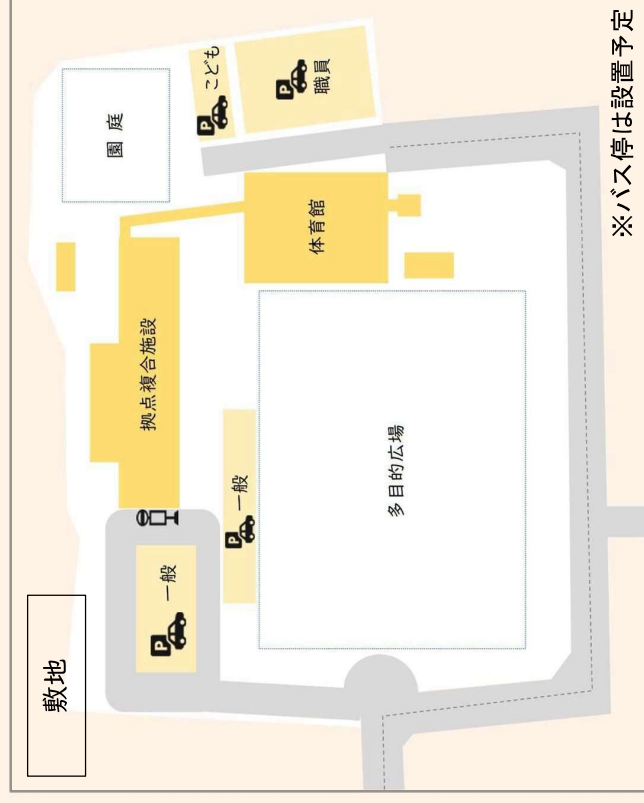


※体育館は、清和公民館の施設としてご利用いただけます。

位置図



敷地



※バス停は設置予定



君津市公民館等再整備基本計画

小糸公民館の再整備計画

第2回 ワークシヨップ

令和5年11月15日（水）

～施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう！～

君津市・君津市教育委員会

本日の流れ

1. 開会あいさつ

5分

2. 前回のあらい

5分

3. ワークショップの進め方の説明

7分

4. 基本計画素案の説明

18分

5. 各グループで意見交換

・テーマ①：再整備のコンセプト案を確認・検討しよう

・テーマ②：施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう

70分

6. 結果発表

10分

7. 閉会あいさつ・事務連絡

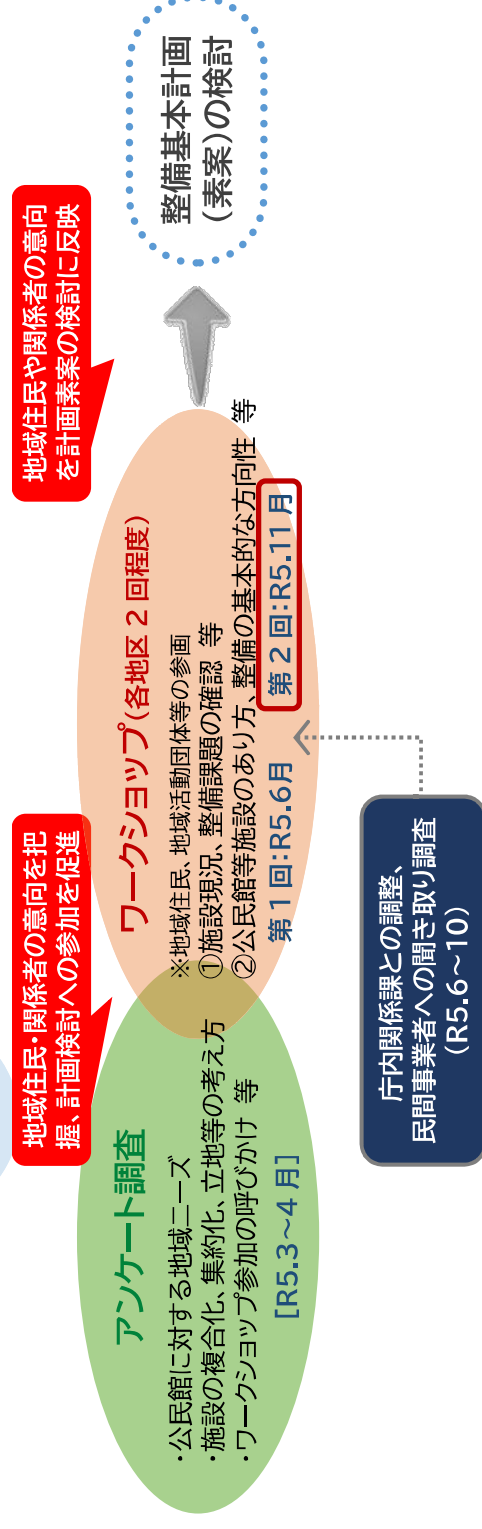
5分

【ワークショップの目的】

公民館の現状や課題、今後の再整備の方向性について、地域にお住まいのみなさまや活動団体のみなさまと意見交換を行います。

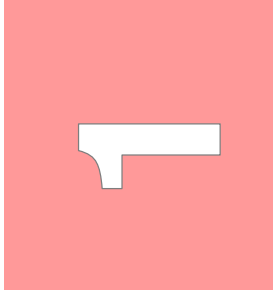
みなさまのご意見を今後の再整備基本計画の策定にいくことを目的とします。

■今年度の住民・関係者の参加と計画策定のフロー



各回の概要

回数	実施時期	内容
第1回	令和5年6月21日（水）	小糸地区や公民館の現状・課題等を確認し、これからの公民館のあり方、使い方のイメージを出し合う
第2回	令和5年11月15日（水）	基本計画素案について確認・検討する。 主に活用・活動の観点から意見交換。



開会あいさつ



前回のあらひ (第1回ワークシヨツプ 開催結果)

2.前回のあららい

第1回ワークショップ開催概要

①開催日時

令和5年6月21日（水）19時～21時

②参加者数

18名

③ワークショップのテーマ

小糸公民館の将来イメージ

～こんな公民館になったらいいな～



2.前回のあららい

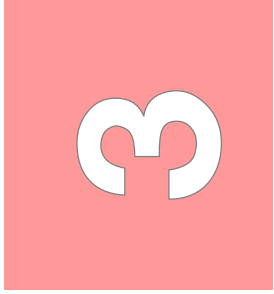
第1回ワークショップ開催結果

小糸公民館等の将来イメージ

地域の拠点 ～こんな公民館等になったらいい～

●：いいねシール A班～C班

①現在、利用している人や団体が使いやすい施設 ・地域の色々な団体・サークルが使いやすい施設 ● ソフトの充実	②新たな利用、新しい利用者が増えるような施設 ・箱だけでなくソフト面の充実を！ ● ・子どもたちが遊び集える楽しみのある公民館 ● ・公民館行きのバスで免許返納した方も気軽に足を運べるようになるという ● ・公民館等のPRを強化、回覧板+α、日常の生活と公民館の機能が合っていないことがあるのではない ● 子どもが遊び集える 日常生活に対応した機能の充実	③地域活動や生涯学習活動の情報を得やすい、参加のきっかけを見つけやすい施設 ・もっと公民館のPRをするいきがいセンター ● ・ターを知らない人が多い ● 公民館、生きがいセンターのPR (知ってもらおう工夫) 立ち寄りたくなる施設 軽食やおしゃべりできる場所 カフェの要素	④特に目的が無くても、住民がくつろげる・集えるような施設 ・気軽に集える場があったら、軽食ができておしゃべりができる ● ・特に目的が無くても住民がくつろげるような施設 ● ・カフェの要素を取り入れる ● ・目的が無くても暇な時間に寄ってみたい場所 ●
⑤地域のいろいろな世代が利用する機会が増えるような施設 ・若い世代は使う機会が少ない ● ・魅力の場でない ⇒ 来る理由 ● ・児童・生徒が放課後夜間等スポーツ・読書・学習等のできる施設 ● 児童生徒が放課後に使える施設	⑥地域の防災・避難拠点の施設として、災害対応機能が充実した施設 ・小糸には川があるので避難所になっても行きにくい ● ・近くの施設に避難し公民館から物資が届けられると良い ● 子どもが集う 防災物資の充実 IT、ネット環境の充実 図書館・スポーツ機能の充実 学びの支援機能の充実	⑦地域の他の施設やサービスの連携がしやすい施設 ・各公民館や市役所にいる人たちのオンライン会議 ⇒ IT活用 ● ・公民館に行くばかりでなく広い小糸地区では自治会館等住民が歩いて行ける場所です ● ・公民館機能だけでなく行政・スポーツ・図書館機能を含めた施設 ● 自治会館等の活用	⑧余暇活動や自主学習ができる施設 ・学べる場があったら図書室で調べたり本を読んだりWi-Fi設備 ● ・ZOOMなど気軽にITが使える環境にしてほしい、地域にも出張して！ ●
⑨地域のことをいろいろ知ることができる施設 ・小糸地区の観光案内、イベント情報 ● ・地域のことをいろいろ知ることができる施設 ● ・壁面を残す ● 地区情報の発信拠点 壁面の保存	⑩子ども連れでも楽しんだり学んだりできる施設 ・小学生・園児が安全に遊べる、児童公園の併設 ● ・放課後の子ども達が公民館で遊ぼう！となるような場所、スペース (高学年くらいになつてくると若干狭い) ● ・子ども達が楽しめる場所安心して遊べる空間 ⇒ 子どもが集まれる場所が減っている ● ・長期の休み (子ども) の時に過ごせる場所 ● ・遊んだら宿題をしたり ● ・子育て中の方が予約なしでブラッと来て遊ぶ場がずっとあるといい ● 親子で気軽に立ち寄れる	⑪農産品直売など、地域住民による物販やビジネス活動なども出来る施設 ・地元で作ったもの無人販売 (家庭菜園も) ● 無人販売、直売所 小学生、園児が安心して遊べる、集まれる (放課後、長期休み期間等) バリアフリーとアクセス確保 バリアフリー化、平屋 交通アクセスの確保	⑫その他 ・公民館利用者の高齢化を考え平屋で願います ⇒ バリアフリー化 ● ・バリアフリー 段差のない建物車椅子 ● ・ペビーカー気軽に利用できる ● ・車イス対応多機能トイレの設置 ● ・地域の高齢化が進む中、利用者の足 (交通の便) の確保が必要 ●



ワークシヨップの進め方

3. ワークショップの進め方

ワークショップとは？

- さまざまな立場の人々が集まって、
- 自由に意見を出し合い、
- 互いの考えを尊重しながら、
意見や提案をまとめていく場です。



ワークショップのマナー、基本ルール

- 相手の意見を最後まで聞く、さえぎらない。
- 相手の意見を否定しない、尊重する。
- 話し合いの時間を独り占めしない。

（話し合いの機会を大切にする、発言はできるだけ簡潔にする等）

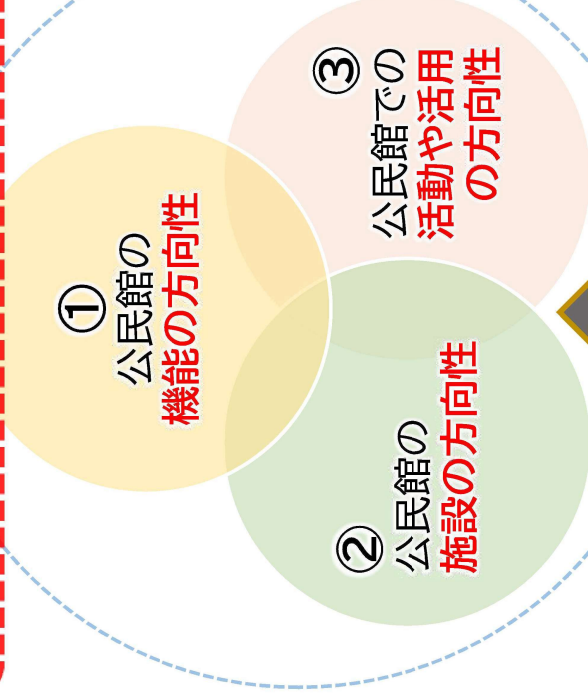
3.ワークショップの進め方

今日の話し合いのテーマ

《第1回》

地区の公民館が重要な役割を担う
公民館の再整備を**地域課題の解決**や
魅力づくりにつなげる

将来の公民館のあり方、将来イメージの検討



公民館の老朽化への対応

《第2回》

基本計画
素案

今日の話し合いは
これらの内容を確認

【3地区共通】

- ・再整備の基本方針
- ・民間活力の導入方針
- ・事業スケジュール等

【周南】

- ・再整備のコンセプト
- ・立地、敷地【**非現地**】
- ・導入機能、諸室、設え
- ・再整備イメージ等

【小系】

- ・再整備のコンセプト
- ・立地、敷地【**現地及び周辺**】
- ・導入機能、諸室、設え、複合化
- ・再整備イメージ等

【小櫃】

- ・再整備のコンセプト
- ・立地、敷地【**現地**】
- ・導入機能、諸室、設え、複合化
- ・再整備イメージ等

3.ワークショップの進め方

タイムテーブル

工程	内容	所要時間
自己紹介	グループに分かれて各自簡単な自己紹介	5分
意見交換	テーマに関する意見交換 【テーマ①:再整備のコンセプト案を確認・検討しよう】 【テーマ②:施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう】	65分
結果発表	グループの代表者により各グループ結果について発表 全体でみんなの意見 (今日の成果)を確認します。	10分

3.ワークショップの進め方

①再整備のコンセプト-基本目標 案を確認・検討しよう。

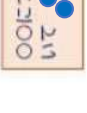
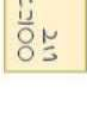
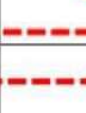
〔 小系の場合 〕

再整備のコンセプト

子どもから大人まで多世代が
いきいきと活動し・暮らし続ける 地域創造拠点

- 誰もが気軽に立ち寄れる、日常に根差した場所づくりによる幅広い交流が生まれる拠点の形成
- 公民館～生きがい支援センターの一団の市有地を活かした拠点エリアの一角の形成

キーワードに対して、特に大事だと思う、補足が必要などの意見を書き出します。

コンセプトのキーワード	特に大事だと思う点、 キーワードに対する思いなど	キーワードに 対する共感
子どもから大人まで多世代	  	  
いきいきと活動	  	
暮らし続ける	    	  
地域創造拠点	 	

※意見●やキーワード●に対する共感をシールで示します。

3.ワークショップの進め方

②施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう。

導入機能等(案) [小糸の場合]

	機能分類	主な諸室	整備の考え方
施設①	公民館機能 (生涯学習機能、 集会機能 等)	講堂	・集会や講演会等の利用として地域住民が集える充分なスペースの確保 ・卓球等の屋内スポーツができる造り ・発災時の避難場所として安心して過ごしやすい空間
		会議室 1 (研修室)	・多様なサークル活動等が可能な構造
		会議室 2 (兼和室)	・会議室に胃表を設置しての兼用可 ・1部屋には茶室の機能を設ける ・発災時には具合の悪い方の救護所等として利用できるよう、講堂と同じフロア・近いレイアウトで検討
		会議室 3 (兼調理実習室)	・サークル利用だけでなく、災害時の活用も想定した造り
		会議室 4 (兼工芸室)	・陶芸だけでなく、工作もできる工芸室
子育て支援 機能		プレイルーム	・子どもが安心して遊べ、親世代の交流場所にもなる部屋づくり (現況機能の継承)
図書館機能		図書室	・中央図書館分室として1000㎡
行政窓口機能		地域市民センター	

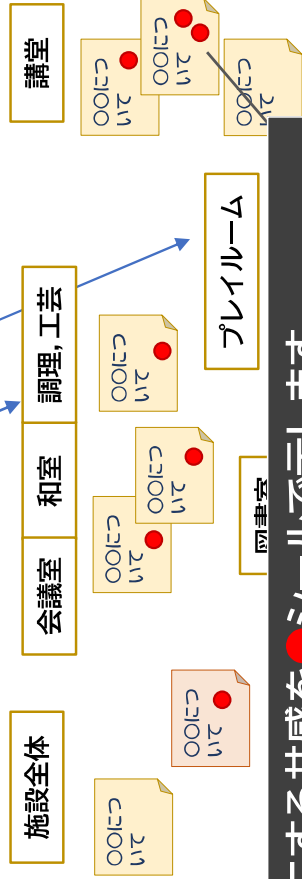
整備方針案の参考イメージ
(ワークショップ検討用の機能・
諸室等の内容説明補足)

※「計画素案」の方針内容について、主に施設の活用・活動のしやすさの観点から、確保したい性能や施設のしつらえ、配慮が必要な点などについて、意見を出し合います。

主に活用・活動
の観点から

施設全体、諸室の
整備内容・仕様（しつらえ）に関する意見

地域の拠点づくり、
賑わい形成に関する意見



※各意見にする共感を●シールで示します。

4

基本計画素案の説明

4.基本計画素案の説明

君津市公民館等再整備の基本方針

【基本理念】

“人と地域をつなぐステーション” としての公民館・拠点施設

公共施設としての基本性能を 充足した施設整備

- 誰もが安心・安全・快適に利用でき、安定的な行政サービスを提供し続けられる施設を目指します
- DX等の技術を活用した行政サービスの質の向上を図ります
- 将来的な施設管理コスト削減のため、既存施設の複合化や現存する公共用地を活用した整備に努めます

柔軟な利活用が可能な施設整備

- シンブルで実用性の高い施設を基本としつつ、多様なニーズに対応できる設えを効率的・機能的に再整備します
- 施設内レイアウトは、フレキシブルな利用が可能な、機能を固定しないエリアの配置や運用方法についても検討します

防災拠点機能の強化

- 地区の避難場所として、耐震性の確保された建物に再整備します
- インフラ途絶時でも機能する防災拠点とするために、発電機・蓄電器の導入や、避難場所として充分なスペースの確保等を検討します

公民館等再整備を契機とした地区の拠点形成

(小糸地区・小櫃地区)

- 生涯学習施設として多世代に利用される公民館を軸に、地区の公共施設の再編（複合化・集約化）を図ります
- 多様な目的で訪れる人々が出会うことにより新たな活動や交流が生まれる、地域の“人”と共に成長する拠点づくりを進めます

4.基本計画素案の説明

君津市公民館等再整備の基本方針

施設の再整備の考え方 -建物の造りについて-

①シンプルで、実用性の高い施設

- 他用途への転用が可能なS I（スケルトンインフィル）の考え方のもと、シンプルな施設構成としつつ多様な社会教育、文化、スポーツ・レクリエーション活動を受け容れる造りとしています。
- 日常メンテナンスや施設内レイアウトの変更の容易性など実用性を重視することとします。

②誰もが利用しやすい施設

- バリアフリーやユニバーサルデザインなどを考慮した施設の造りとし、誰もが使いやすい施設とします。
- ホール等のようなフリースペース的空間を設け、誰もが気軽に立ち寄れて、用事がなくとも憩い・くつろげる環境を整備し、にぎわいや交流を生む拠点施設とします。

③地球環境に優しい施設

- 君津市の「環境グリーン都市」実現に向け、「第5次君津市地球温暖化対策実行計画」の施策に従って、主に以下の事項に取り組みながら再整備を行うものとします。
- ライフサイクルコストの低減につなげるべく、再整備後の運営維持管理を考慮したエネルギー利用等の最適化を図るものとします。

施策		取組 ★：重要取組
(1)省エネルギーの推進		省エネルギー機器等の導入推進 ★
		省エネルギー建築の推進
(2)再生可能エネルギー利用の推進		市有施設・遊休地における再生可能エネルギー設備等の導入推進 ★
		低炭素電力の利用推進
(5)吸収源対策の推進		森林資源の活用
(7)デジタル技術の活用による脱炭素化の推進		DXの推進

4.基本計画素案の説明

君津市公民館等再整備の基本方針

民間活力の導入 -公民館再整備における官民連携の推進-

公民館等の再整備においては、民間活力により効率的・効果的な整備を進めるとともに、地域のポテンシャルを活かしたにぎわい・魅力づくりを官民連携で検討していきます。令和5年8月～9月に民間事業者等を対象としたサウンディング調査を実施しました。調査結果から、公民館等再整備における民間活力の導入方針を以下の通りとします。

■ 民間活力導入の基本方針

- 公民館等再整備事業を包括して発注（バンドリング）するなど、事業者の参入意欲向上や行政コストの縮減等につながる手法を検討します。
- 地域の利便性向上に資する事業を施設内または敷地内に導入することを検討します。

※施設の整備～運営維持管理において民間活力の導入を想定しますが、公民館事業についてはこれまで通り君津市の直営により運営するものとします。

官民連携とは

- 公共事業、例えば公共施設の設計・工事・運営維持管理を民間事業者のノウハウを取り入れながら進めることです。
- 官民連携により、従来の公共サービスと民間サービスが融合することで、利用者の利便性やサービスの質の向上につながります。

4.基本計画素案の説明

新しい小糸地区拠点施設の再整備コンセプト

子どもから大人まで多世代が いきいきと活動し・暮らし続ける 地域創造拠点

- 誰もが気軽に立ち寄れる、日常に根差した場所づくりによる幅広い交流が生まれる拠点の形成
- 公民館～生きがい支援センターの一団の市有地を活かした拠点エリアの一角の形成

第1回ワークショップで挙げたキーワード等

気軽に立ち寄れる・ 集える

- 軽食やおしゃべりができる、気軽に集える場所
- 目的がなくても立ち寄ってくつろげる

子どもが集う・ 立寄りたくなる

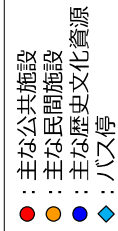
- 若い世代が使いたくなる魅力
- 放課後に使いたい施設
- 子どもが楽しめる・安心して遊べる

誰もが使いやすい

- バリアフリー（段差のない建物 等）
- 車椅子対応の多機能トイレの設置
- 平屋建て

新しい小糸地区拠点施設の立地の考え方

一帯の敷地を活用した拠点エリアの一角の形成を検討します。



4.基本計画素案の説明

新しい小糸地区拠点施設の導入機能等（案）

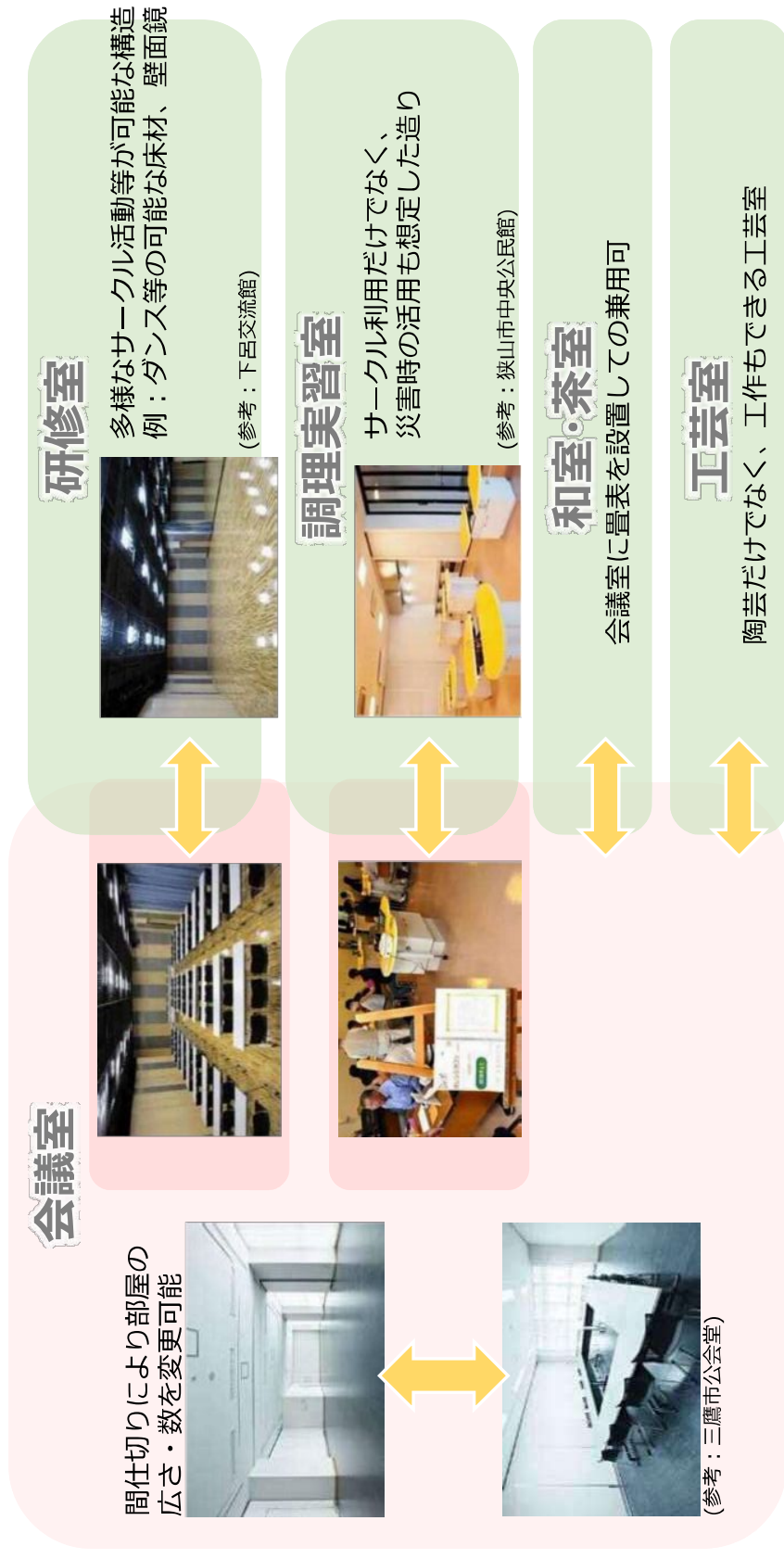
機能分類	主な諸室	整備の考え方
施設① 公民館機能 (生涯学習機能、 集会機能 等)	講堂	- 集会や講演会等の利用として地域住民が集える充分なスペースの確保 - 卓球等の屋内スポーツができる造り - 発災時の避難場所として安心して過ごしやすい空間
	会議室 1 (研修室)	多様なサークル活動等が可能な構造
	会議室 2 (兼和室)	- 会議室に置表を設置しての兼用可 1部屋には茶室の機能を設ける - 発災時には具合の悪い方の救護所等として利用できるよう、講堂と同じレイアウトで検討
	会議室 3 (兼調理実習室)	サークル利用だけでなく、災害時の活用も想定した造り
	会議室 4 (兼工芸室)	陶芸だけでなく、工作もできる工芸室
施設② 保育機能 (児童福祉)	プレイルーム	子どもが安心して遊べ、親世代の交流場所にもなる部屋づくり (現況機能の継承)
	図書室	中央図書館分室として10000冊程度の蔵書
	地域市民センター	支所機能を継承。事務室は公民館と兼用
	ホール	誰もが立寄り・集いやしやすい雰囲気
	倉庫	事務用倉庫
その他	トイレ	- バリアフリーを考慮した造り - おむつ交換台や授乳室等、子育て世代が利用しやすい施設設備の検討
	保育園	- 中保育園・小糸保育園を統合し定員90人程度の保育所として整備 - セキユリディの観点から建物や園庭は拠点施設とは分離・別棟として整備 ※民営化（敷地外整備も含む）も選択肢として検討する。
	防災倉庫	講堂から利用しやすい配置
	—	60台程度。移動図書館の駐停車場所や、地区文化祭等のイベント利用も想定。 - 雨天時に送迎利用者や図書(中央図書館より搬入出)が濡れないよう、ポーチに面する位置に配置する
	壁画	既存のモザイクタイル壁画の保全については、様々な視点から検討を進める。

4.基本計画素案の説明

基本的な考え方

- シンブルで実用性の高い施設を基本としつつ、多世代の多様なニーズに対応できる設えを効率的・機能的に再整備します。
- 施設内レイアウトの検討に当たっては、フレキシブルな利用が可能な機能を固定しないエリアの配置や運用方法についても検討します。

参考イメージ



4.基本計画素案の説明

講堂

- 集会や講演会等の利用として地域住民が集える充分なスペースの確保
- 卓球等の屋内スポーツができる構造
- 発災時の避難場所として安心して過ごしやすい空間

参考イメージ



4.基本計画素案の説明

ホール

- 誰もが立寄り・集いやすい雰囲気

参考イメージ



オープンで自由に使える雰囲気
[左：野毛青少年交流センター、
右：金田地域交流センター]



市民活動等の展示も可能なスペース
(参考：千葉市生涯学習センター)



コミュニティイベント(コミュニティカフェ)
(参考：金田地域交流センター)

4.基本計画素案の説明

図書室

- 中央図書館分室として10000冊程度の蔵書

参考イメージ



ホール等の自由に使える空間に
面して気軽に本を手に取り、
読書ができる
[左：長野市民館、
右：竹田市立図書館]



床に座って遊びながら絵本を読むことができる
(参考：こども本の森 中之島)

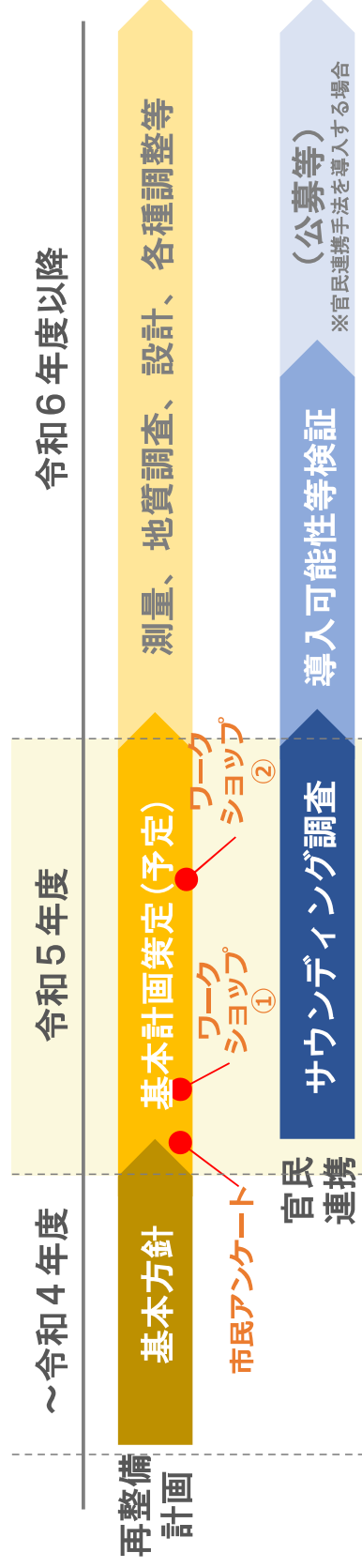


地域のことを学べるコーナー
(参考：あかし市民図書館)

4.基本計画素案の説明

事業スケジュール（予定）

- 本年度中に基本計画を策定します。
- 来年度より、官民連携による計画の具体化を進めます。
- 3地区の施設整備を並行して進めることは難しいため、段階的に整備を進めるものとします。





君津市公民館等再整備基本計画

周南公民館の再整備計画

第2回 ワークシヨップ

令和5年11月16日（木）

～施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう！～

君津市・君津市教育委員会

本日の流れ

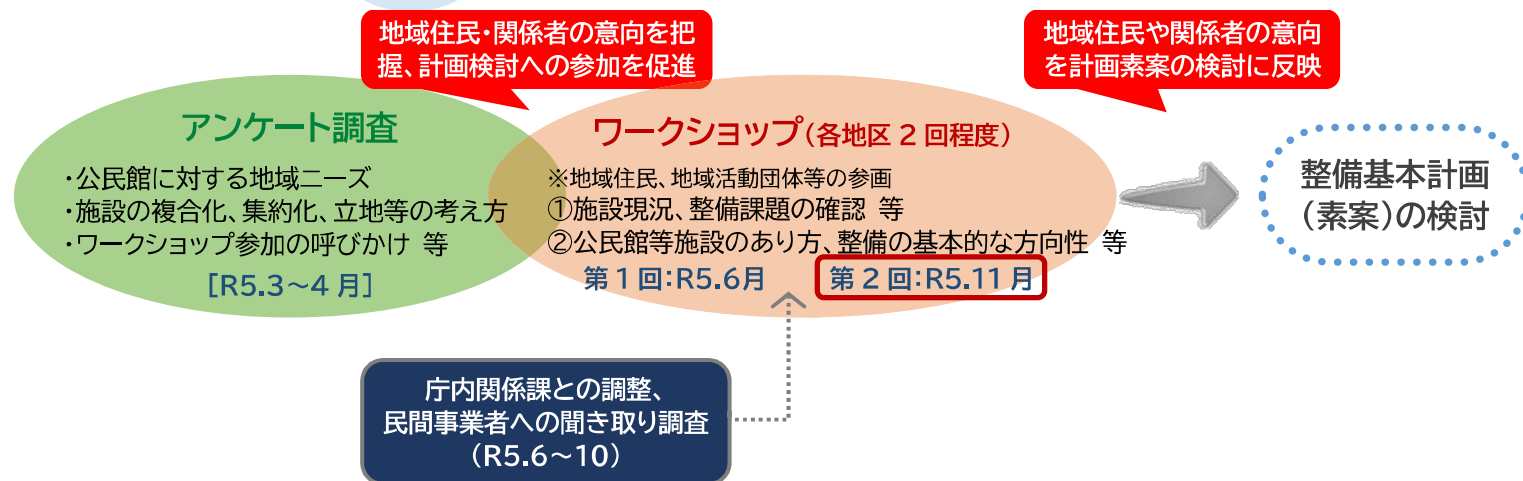
- | | |
|-----------------------------|-----|
| 1. 開会あいさつ | 5分 |
| 2. 前回のおさらい | 5分 |
| 3. ワークショップの進め方の説明 | 7分 |
| 4. 基本計画素案の説明 | 18分 |
| 5. 各グループで意見交換 | 70分 |
| ・テーマ①：再整備のコンセプト案を確認・検討しよう | |
| ・テーマ②：施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう | |
| 6. 結果発表 | 10分 |
| 7. 閉会あいさつ・事務連絡 | 5分 |

【ワークショップの目的】

公民館の現状や課題、今後の再整備の方向性について、地域にお住まいのみなさまや活動団体のみなさまと意見交換を行います。

みなさまのご意見を今後の再整備基本計画の策定の参考にしていくことを目的とします。

■ 今年度の住民・関係者の参加と計画策定のフロー



各回の概要

回数	実施時期	内容
第1回	令和5年6月19日（月）	周南地区や公民館の現状・課題等を確認し、 これからの公民館のあり方、使い方の イメージを出し合う
第2回	令和5年11月16日（木）	基本計画素案について確認・検討する。 主に活用・活動の観点から意見交換。

1

開会あいさつ

2

前回のおさらい (第1回ワークショップ 開催結果)

2. 前回のおさらい

第1回ワークショップ開催概要

①開催日時

令和5年6月19日（月）19時～21時

②参加者数

14名

③ワークショップのテーマ

周南公民館の将来イメージ

～こんな公民館になったらいいな～



2. 前回のおさらい

第1回ワークショップ開催結果

周南公民館の将来イメージ ～こんな公民館になったらいいな～ ●：いいねシール

A班～C班

①現在、利用している人や団体が使いやすい施設 ・Wi-Fiの利用 ● ネット環境の整備 一人ひとりの学び、体験、交流	②新たな利用、新しい利用者が増えるような施設 ・設備が必要なスポーツが出来る(バスケット等) ● ・色んなスポーツがもっとできる施設(昔バレー、テニス) ●●●●● ・予約不要でカフェのような施設(飲食も) ● ・夜、ヨガ・ピラティスを新しいサークル ●● 新しいレクリエーション機会(若者や様々な世代の参加) カフェのような施設(休息、交流、滞留)	③地域活動や生涯学習活動の情報を得やすい、参加のきっかけを見つけやすい施設 ・地域のことをもっと知る機会を増やす(歴史・文化、専門家の役割) ● ・SNSや広報の方法をわかりやすく ● ・SNSで発信 ● ・見やすいHP、ブログ ● 若者の活動の機会と場(若者から大人への働きかけ) 新しいメディアでの情報発信(SNS、ブログ等)	④特に目的が無くても、住民がくつろげる・集えるような施設 ・学生カフェや交流会⇒学生が運営する ●● ・喫茶店、売店等飲食できるスペースがあると気軽に立ち寄りたくなるのでは ● 学生カフェ(若い人の取組、学生自身が楽しむ) 立ち寄り施設(喫茶や売店等)
⑤地域のいろいろな世代が利用する機会が増えるような施設 ・文化祭への個人出展⇒展示・発表スペース ● ・周南地区の異なる地域との交流の場所になるとよい ●● 個人の活動がしやすく(発表・展示、学習) 地域間(外)の交流の機会	⑥地域の防災・避難拠点の施設として、災害対応機能が充実した施設 ・防災施設の充実、公民館の併設 ● ・災害時に公民館へ集まれば安心できるようにしたい ● ・各地域参加型の防災イベントがあると進んで参加されるのでは？(最近地震も多い為) ●● 防災拠点として充実 日頃の防災の取組が重要(訓練、イベント等)	⑦地域の他の施設やサービスとの連携がしやすい施設 ・学校行事と公民館とを連携させて沢山活用する⇒今はなくなってしまった ● ・図書館の併設 ● ・小学校・中学校との連携(駐車場の共用・利用) ●●●●● ・部活動の一部連携 ● 図書館の維持 小・中学校との連携(施設、行事、部活等)	⑧余暇活動や自主学習ができる施設 ・自習できる場所、量ではなくカフェ的な! ● ・学校帰りに学べる環境アクセス ●● 児童・生徒の学校かえりの利用 子どもの居場所、利用
⑨地域のことをいろいろ知ることができる施設 ・学校での授業と結びつけて地域活動の記録などを展示する ● ・散歩コースの通過点 ● 地域活動の展示(学校授業との連携)	⑩子ども連れでも楽しんだり学んだりできる施設 ・親子で参加できるイベントや定例会を増やし日常と結びつける⇒小学生と親 ● ・公民館主体の子ども食堂 ● 親子参加のイベントの日常化(子ども食堂等)	⑪農産品直売など、地域住民による物販やビジネス活動なども出来る施設	⑫その他 ・学生の通学路など、放課後に簡単に足を運べる所に移転⇒学校の近く等 ● 小学生が立ち寄りやすい立地、学校周辺

3

ワークショップの進め方

3.ワークショップの進め方

ワークショップとは？

- さまざまな立場の人々が集まって、
- 自由に意見を出し合い、
- 互いの考えを尊重しながら、
意見や提案をまとめ上げていく場です。



ワークショップのマナー、基本ルール

- 相手の意見を最後まで聞く、さえぎらない。
 - 相手の意見を否定しない、尊重する。
 - 話し合いの時間を独り占めしない。
- （話し合いの機会を大切にする、発言はできるだけ簡潔にする等）

3.ワークショップの進め方

今日の話し合いのテーマ

《第1回》

地区の公民館が重要な役割を担う
公民館の再整備を**地域課題の解決**や
魅力づくりにつなげる

将来の公民館のあり方、将来イメージの検討

①
公民館の
機能の方向性

②
公民館の
施設の方向性

③
公民館での
**活動や活用
の方向性**

公民館の老朽化への対応

基本計画
素案

《第2回》

今日の話し合いは
これらの内容を確認

【3地区共通】

- ・再整備の基本方針
- ・民間活力の導入方針
- ・事業スケジュール 等

【周南】

- ・再整備のコンセプト
- ・立地、敷地【**非現地**】
- ・導入機能、諸室、設え
- ・再整備イメージ 等

【小糸】

- ・再整備のコンセプト
- ・立地、敷地【**現地及び周辺**】
- ・導入機能、諸室、設え、**複合化**
- ・再整備イメージ 等

【小櫃】

- ・再整備のコンセプト
- ・立地、敷地【**現地**】
- ・導入機能、諸室、設え、**複合化**
- ・再整備イメージ 等

3.ワークショップの進め方

タイムテーブル

工程	内容	所要時間
自己紹介	・グループに分かれて各自簡単な自己紹介	5分
意見交換	施設全体、諸室の 整備内容・仕様（しつらえ）に関する意見 施設全体 和室 研修室 講堂 図書室 ホール等 OOについて	

3.ワークショップの進め方

①再整備のコンセプト-基本目標 案を確認・検討しよう。

周南の場合

再整備のコンセプト

地域を知り・学び・つながる公民館
～周南の人・自然・歴史文化を地域の手で守り育てる場所～

- 子どもから高齢者まで誰もが使いやすい、様々な活動を受け容れる施設の造り
- 昔から住む人も、新たに住み始める人も一緒になって地域を知り・創る場所
- 小学校・中学校との更なる連携

※キーワードに対して、特に大事だと思う、補足が必要などの意見を書き出します。

コンセプトのキーワード	特に大事だと思う点、補足等したい点、 キーワードに対する思いなど	キーワードに 対する共感
地域を知り・学び・つながる	OOにつ いて OOにつ いて	● ●
人・自然・歴史文化	OOにつ いて OOにつ いて OOにつ いて	●
地域の手で	OOにつ いて OOにつ いて OOにつ いて OOにつ いて	● ● ●
守り育てる	OOにつ いて OOにつ いて	

※意見●やキーワード●に対する共感をシールで示します。

3.ワークショップの進め方

②施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう。

導入機能等(案) 【周南の場合】

	機能分類	主な諸室	整備の考え方
屋内施設	公民館機能 (生涯学習機能、集会機能等)	講堂	- 集会や講演会等の利用として地域住民が集える十分なスペースの確保 - 卓球等の屋内スポーツができる構造 - 発災時の避難場所として安心して過ごしやすい空間
		会議室1 (研修室)	多様なサークル活動等が可能な構造
		会議室2 (兼和室)	- 会議室に畳を設置しての兼用可 1部屋には茶室の機能を設ける - 発災時には具合の悪い方の救護所等として利用できるよう、講堂と同じフロア・近いレイアウトで検討
		会議室3 (兼調理実習室)	サークル利用だけでなく、災害時の活用も想定した設え
図書館機能	図書室		中央図書館分室(図書サービスコーナー)として1,500冊程度の蔵書
管理・衛生等	ホール		誰もが立寄り・集いやすい雰囲気
	事務室		公民館利用の受付と図書室の

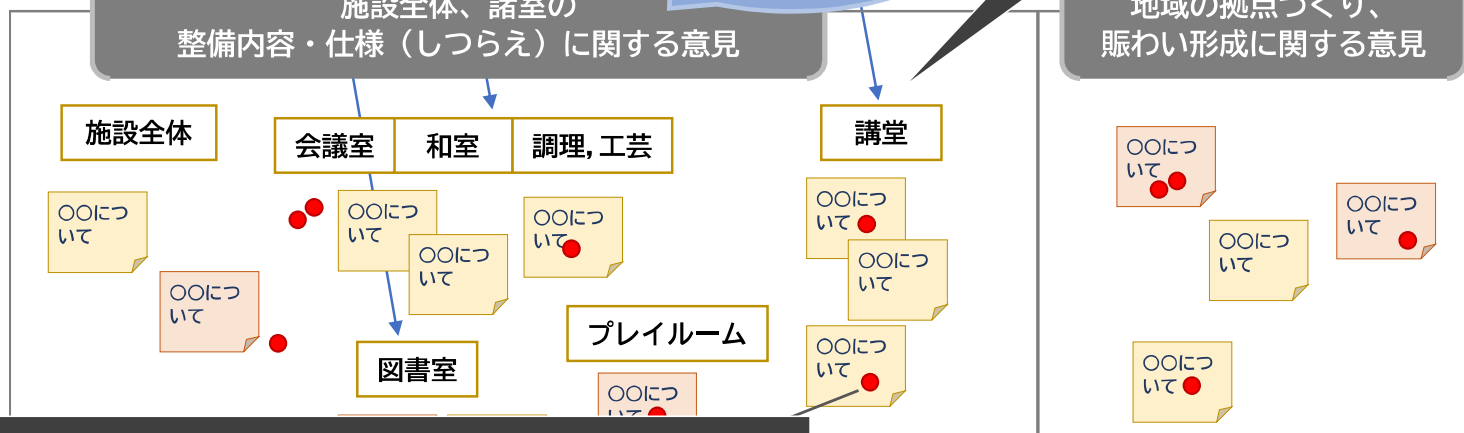
整備方針案の参考イメージ
(ワークショップ検討用の機能・諸室等の内容説明補足)

※「計画素案」の方針内容について、主に施設の活用・活動のしやすさの観点から、確保したい性能や施設のしつらえ、配慮が必要な点などについて、意見を出し合います。

主に活用・活動の観点から

施設全体、諸室の整備内容・仕様(しつらえ)に関する意見

地域の拠点づくり、賑わい形成に関する意見



※各意見にする共感を●シールで示します。

4

基本計画素案の説明

4.基本計画素案の説明

君津市公民館等再整備の基本方針

【基本理念】

“人と地域をつなぐステーション” としての公民館・拠点施設

公共施設としての基本性能を 充足した施設整備

- 誰もが安心・安全・快適に利用でき、安定的な行政サービスを提供し続けられる施設を目指します
- DX等の技術を活用した行政サービスの質の向上を図ります
- 将来的な施設管理コスト削減のため、既存施設の複合化や現存する公共用地を活用した整備に努めます

防災拠点機能の強化

- 地区の避難場所として、耐震性の確保された建物に再整備します
- インフラ途絶時でも機能する防災拠点とするために、発電機・蓄電器の導入や、避難場所として十分なスペースの確保等を検討します

柔軟な利活用が可能な施設整備

- シンプルで実用性の高い施設を基本としつつ、多様なニーズに対応できる設えを効率的・機能的に再整備します
- 施設内レイアウトは、フレキシブルな利用が可能な、機能を固定しないエリアの配置や運用方法についても検討します

公民館等再整備を契機とした地区の拠点形成 (小糸地区・小櫃地区)

- 生涯学習施設として多世代に利用される公民館を軸に、地区の公共施設の再編（複合化・集約化）を図ります
- 多様な目的で訪れる人々が出会うことにより新たな活動や交流が生まれる、地域の“人”と共に成長する拠点づくりを進めます

4.基本計画素案の説明

君津市公民館等再整備の基本方針

施設の再整備の考え方 -建物の造りについて-

①シンプルで、実用性の高い施設

- 他用途への転用が可能なS I（スケルトンインフィル）の考え方のもと、シンプルな施設構成としつつ多様な社会教育、文化、スポーツ・レクリエーション活動を受け容れる造りとします。
- 日常メンテナンスや施設内レイアウトの変更の容易性など実用性を重視することとします。

②誰もが利用しやすい施設

- バリアフリーやユニバーサルデザインなどを考慮した施設の造りとし、誰もが使いやすい施設とします。
- ホール等のようなフリースペース的空間を設け、誰もが気軽に立ち寄れて、用事がなくとも憩い・くつろげる環境を整備し、にぎわいや交流を生む拠点施設とします。

③地球環境に優しい施設

- 君津市の「環境グリーン都市」実現に向け、「第5次君津市地球温暖化対策実行計画」の施策に従って、主に以下の事項に取り組みながら再整備を行うものとします。
- ライフサイクルコストの低減につなげるべく、再整備後の運営維持管理を考慮したエネルギー利用等の最適化を図るものとします。

施策	取組 ★：重要取組
(1)省エネルギーの推進	省エネルギー機器等の導入推進★ 省エネルギー建築の推進
(2)再生可能エネルギー利用の推進	市有施設・遊休地における再生可能エネルギー設備等の導入推進★ 低炭素電力の利用推進
(5)吸収源対策の推進	森林資源の活用
(7)デジタル技術の活用による脱炭素化の推進	DXの推進

4.基本計画素案の説明

君津市公民館等再整備の基本方針

民間活力の導入 -公民館再整備における官民連携の推進-

公民館等の再整備においては、民間活力により効率的・効果的な整備を進めるとともに、地域のポテンシャルを活かしたにぎわい・魅力づくりを官民連携で検討していきます。令和5年8月～9月に民間事業者等を対象としたサウンディング調査を実施しました。調査結果から、公民館等再整備における民間活力の導入方針を以下の通りとします。

■ 民間活力導入の基本方針

- 公民館等再整備事業を包括して発注（バンドリング）するなど、事業者の参入意欲向上や行政コストの縮減等につながる手法を検討します。
- 地域の利便性向上に資する事業を施設内または敷地内に導入することを検討します。

※施設の整備～運営維持管理において民間活力の導入を想定しますが、公民館事業についてはこれまで通り君津市の直営により運営するものとします。

官民連携とは

- 公共事業、例えば公共施設の設計・工事・運営維持管理を民間事業者のノウハウを取り入れながら進めることです。
- 官民連携により、従来の公共サービスと民間サービスが融合することで、利用者の利便性やサービスの質の向上につながります。

4.基本計画素案の説明

新しい周南公民館 の再整備コンセプト

地域を知り・学び・つながる公民館 ～周南の人・自然・歴史文化を地域の手で守り育てる場所～

- 子どもから高齢者まで誰もが使いやすい、様々な活動を受け容れる施設の造り
- 昔から住む人も、新たに住み始める人も一緒になって地域を知り・創る場所
- 小学校・中学校との更なる連携

第1回ワークショップで挙げたキーワード等

地域のことをいろいろ 知ることができる

- 学校での授業と結びつけて地域活動の記録などを展示する
- 小学校・中学校との連携
- 地区内の交流の場

様々な利用ができる ⇒新たな利用者が増える

- 色んなスポーツがもっとできる施設
- 新しいサークル活動

気軽に立ち寄れる

- 喫茶店、売店等飲食できるスペース
- 放課後に簡単に足を運べる場所

4.基本計画素案の説明

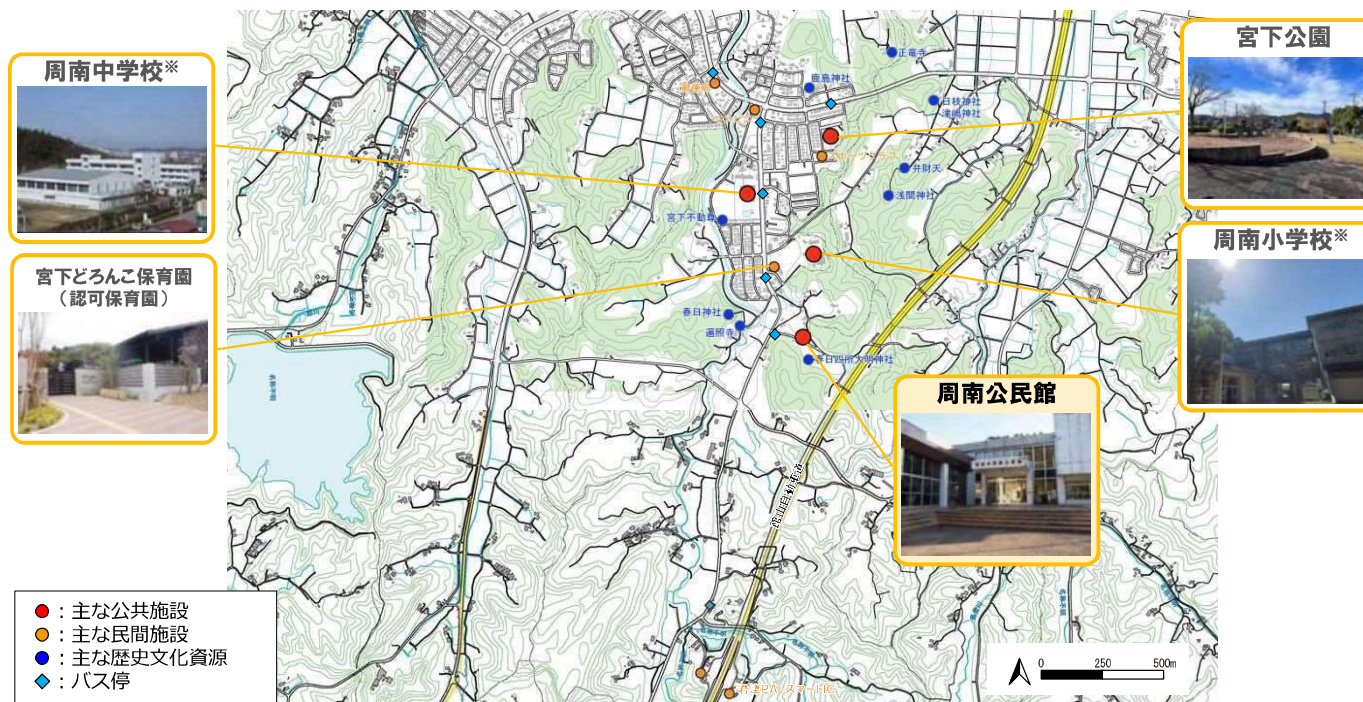
新しい周南公民館 の立地の考え方

現状

敷地の一部が土砂災害特別警戒区域にかかる

再整備後
の立地

災害リスクの低い土地、かつ、小中学生から高齢者まで
様々な世代が利用しやすい場所で検討します。



4.基本計画素案の説明

新しい周南公民館 の導入機能等（案）

	機能分類	主な諸室	整備の考え方
屋内施設	公民館機能 (生涯学習機能、集会機能 等)	講堂	・集会や講演会等の利用として地域住民が集える十分なスペースの確保 ・卓球等の屋内スポーツができる構造 ・発災時の避難場所として安心して過ごしやすい空間
		会議室 1 (研修室)	・多様なサークル活動等が可能な構造
		会議室 2 (兼和室)	・会議室に畳表を設置しての兼用可 ・1部屋には茶室の機能を設ける ・発災時には具合の悪い方の救護所等として利用できるよう、講堂と同じフロア・近いレイアウトで検討
		会議室 3 (兼調理実習室)	・サークル利用だけでなく、災害時の活用も想定した設え
	図書館機能 管理・衛生等	図書室	・中央図書館分室(図書サービスコーナー)として1,500冊程度の蔵書
		ホール	・誰もが立寄り・集しやすい雰囲気
		事務室	・公民館利用の受付と図書室の貸出・予約ができる設え
		倉庫	・事務用倉庫
		トイレ	・バリアフリーを考慮した造り ・おむつ交換台や授乳室等、子育て世代が利用しやすい施設設備の検討
その他	災害拠点機能	防災倉庫	・講堂から利用しやすい位置に配置する
	—	駐車場	・40台程度。移動図書館の駐停場所や、地区文化祭等のイベント利用も想定。 ・雨天時に送迎利用者や図書(中央図書館より搬入出)が濡れないよう、ポーチに面する位置に配置する

4.基本計画素案の説明

基本的な考え方

- シンプルで実用性の高い施設を基本としつつ、多世代の多様なニーズに対応できる設えを効率的・機能的に再整備します。
- 施設内レイアウトの検討に当たっては、フレキシブルな利用が可能な機能を固定しないエリアの配置や運用方法についても検討します。

参考イメージ

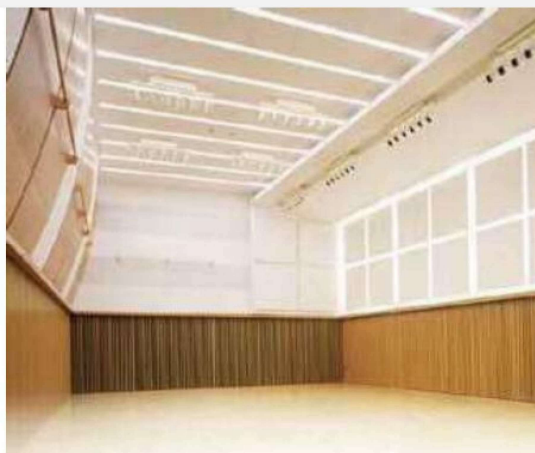


4.基本計画素案の説明

講堂

- 集会や講演会等の利用として地域住民が集える十分なスペースの確保
- 卓球等の屋内スポーツができる構造
- 発災時の避難場所として安心して過ごしやすい空間

参考イメージ



第1回ワークショップで挙げたキーワード等

災害時に安心して
集まれる

部活動の一部連携
いろいろなスポーツが
もっとできる

親子で参加できる
イベントを増やす
新しいサークル
(ヨガ、ピラティス等)

4.基本計画素案の説明

ホール

・誰もが立寄り・集いやすい雰囲気

参考イメージ



オープンで自由に使える雰囲気
(参考：野毛青少年交流センター)



コミュニティカフェとしての活用
(参考：金田地域交流センター)



市民活動等の展示も可能なスペース
(参考：千葉市生涯学習センター)

第1回ワークショップで挙げたキーワード等

喫茶店・売店等の飲食できるスペース

⇒気軽に立ち寄りたくなる

学生カフェや交流会

地域のことをもっと知る機会

地域活動の記録などを展示する

自習できる場所

4.基本計画素案の説明

図書室

- 中央図書館分室(図書サービスコーナー)として1,500冊程度の蔵書

参考イメージ



(参考：長野市民館)



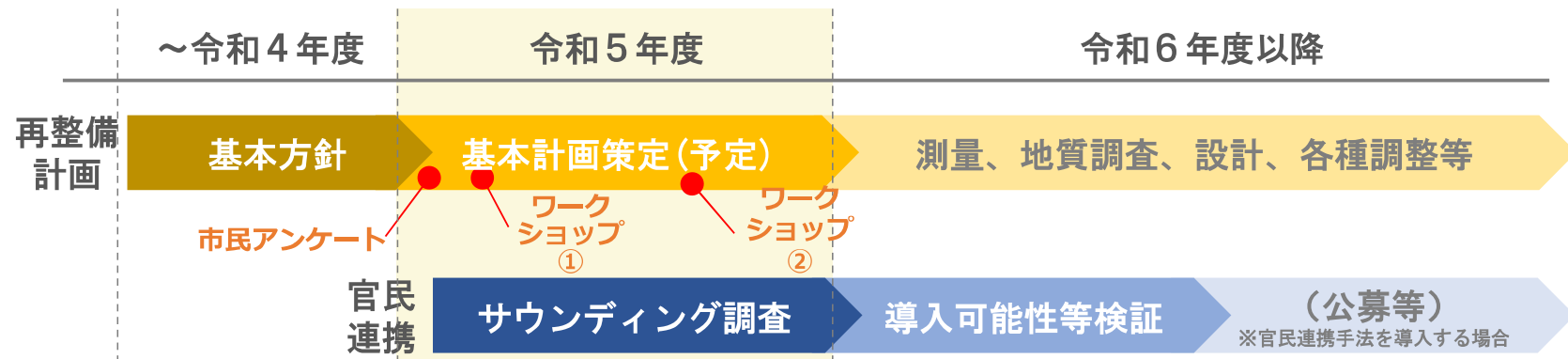
(参考：竹田市立図書館)

ホール等の自由に使える空間に面して気軽に本を手に取り、読書ができる

4.基本計画素案の説明

事業スケジュール（予定）

- 本年度中に基本計画を策定します。
- 来年度より、官民連携による計画の具体化を進めます。
- 3地区の施設整備を並行して進めることは難しいため、段階的に整備を進めるものとします。





君津市公民館等再整備基本計画

小櫃公民館の再整備計画

第2回 ワークシヨップ

令和5年11月20日（月）

～施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう！～

君津市・君津市教育委員会

本日の流れ

1. 開会あいさつ

5分

2. 前回のあらい

5分

3. ワークショップの進め方の説明

7分

4. 基本計画素案の説明

18分

5. 各グループで意見交換

・テーマ①：再整備のコンセプト案を確認・検討しよう

・テーマ②：施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう

70分

6. 結果発表

10分

7. 閉会あいさつ・事務連絡

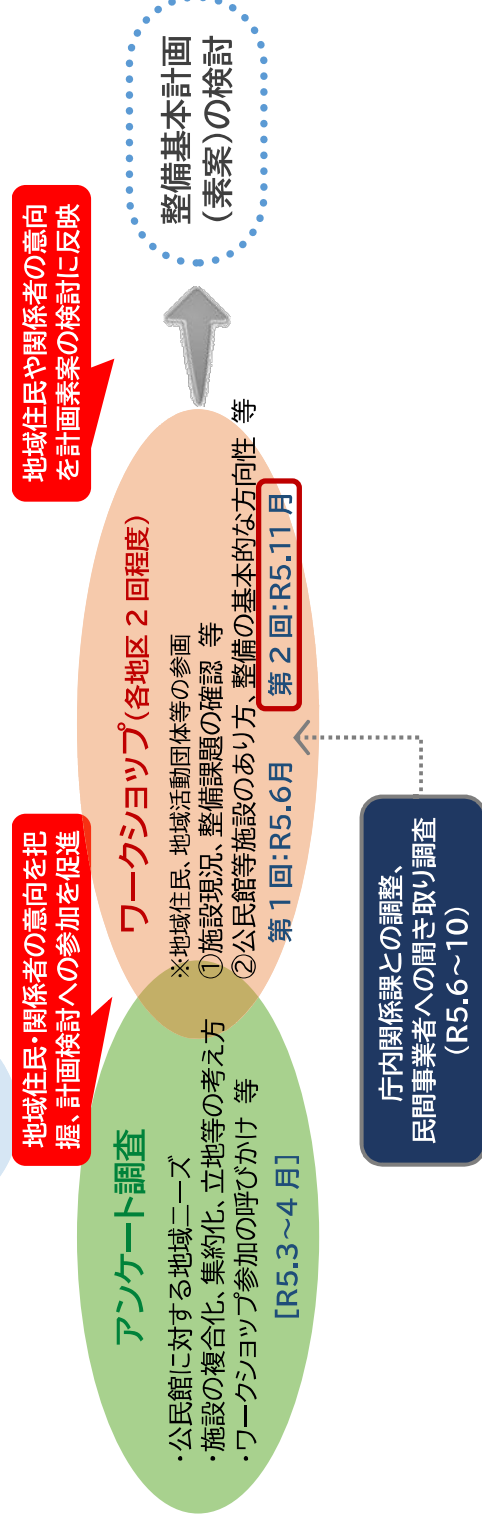
5分

【ワークショップの目的】

公民館の現状や課題、今後の再整備の方向性について、地域にお住まいのみなさまや活動団体のみなさまと意見交換を行います。

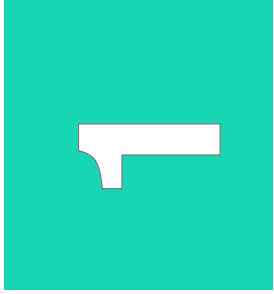
みなさまのご意見を今後の再整備基本計画の策定の参考にしていくことを目的とします。

■今年度の住民・関係者の参加と計画策定のフロー



各回の概要

回数	実施時期	内容
第1回	令和5年6月20日（火）	小櫃地区や公民館の現状・課題等を確認し、これからの公民館のあり方、使い方のイメージを出し合う
第2回	令和5年11月20日（月）	基本計画素案について確認・検討する。 主に活用・活動の観点から意見交換。



開会あいさつ



前回のあらい

(第1回ワークショップ 開催結果)

2.前回のあららい

第1回ワークショップ開催概要

①開催日時

令和5年6月20日（火） 19時～21時

②参加者数

16名

③ワークショップのテーマ

小櫃公民館の将来イメージ
～こんな公民館になったらいいな～



2. 前回のおさらい

第1回ワークショップ開催結果

小櫃公民館等の将来イメージ

地域の拠点 ～ 小さな公民館等になったらいな～

●：いいねシール A班～C班

①現在、利用している人や団体が使いやすい施設 - 館内手すりをつけていただけで利用者が安心して歩けると思う - 机やいすの出入れが簡単な設備が良い 机、いす等が使いやすい	②新たな利用、新しい利用者が増えるような施設 - 移住した人にやさしい小櫃（参加しやすいサークル） - 地域の行事企画⇒広める・援助 - 懇親会の集いの場（今まではない） - 土日（休日）の活用が少ない 新しい住民も参加しやすいサークル 新旧住民の交流（足を運んでもらう） 地域行事の企画	③地域活動や生涯学習活動の情報を得やすい、参加のきっかけを見つやすい施設 入口付近に分かりやすいPRを 目につきやすいPR 親睦会	④特に目的が無くても、住民がくつろげる・集えるような施設 - 子どもが気楽に寄り道でき遊べるスペース⇒立ち寄れる、友達つき合いの場 - お茶を飲んでくつろげるスペース明るい空間 - お茶を飲みながらくつろげる - 中学生は往んでいる場所が離れているため平日ゆっくり友達と話せる場所にならないか 子どもが気軽に立ち寄れる
⑤地域のいろいろな世代が利用する機会が増えるような施設 - 喫茶室を開きたい - 公民館をもっと魅力的に若い世代が利用集まれる場、コンビニやカフェを作る - 喫茶室、カフェ、コンビニ - 移動手段のない方が来られるといい - 移動手段の確保 - 公園やフリースペースで交流できるようにする - 交流のためのフリースペース 災害時のプライバシー配慮 防災活動拠点として充実 地域活動拠点としての充実	⑥地域の防災、避難拠点の施設として、災害対応機能が充実した施設 - 災害時プライバシーを守れるように⇒プライバシー対応 - 災害のため防災拠点として活動できる施設、災害用便所 災害時のプライバシー配慮 防災活動拠点として充実 地域活動拠点としての充実	⑦地域の他の施設やサービスとの連携がしやすい施設 - 市民センター併設 - 福祉活動に利用する部屋がほしい - 福祉活動での活用 - 診療所併設により公民館に来訪しやすくなる - 通信（インターネット等）でつながる - 診療所の併設 - 図書室の充実 - 図書室の学習機能の充実、使いやすく - 子ども向け塾	⑧余暇活動や自主学習ができる施設 - 図書室の整備（学習できる場） - 図書室を使いやすく明るくしてほしい、絵本を充実して大人向けは予約のみでも - 図書室は開放的で明るい場所がよい（死角のない）明るい図書室を希望 - 子ども向け英語塾（無料）
⑨地域のことをいろいろ知ることができる施設	⑩子ども連れでも楽しんで学んだりできる施設 - 子どもの居場所として公民館、地域の施設として担い手として - 子ども食堂を開きたい - 子どもの遊び場所が少ないので学校後に寄れる場（学童に行けない子ども） - 子どもの遊び場づくり、遊具や雨の日は室内で過ごせるなど、絵本コーナーゲームコーナー - 公園・プレイルーム - 子どもの居場所、遊び場（子ども食堂、公園、絵本コーナー、プレイルーム等）	⑪農産品直売など、地域住民による物販やビジネス活動なども出来る施設	⑫その他 - 施設多機能トイレ、バリアフリー化 - 館内手すりをつけていただけると利用者が安心して歩けると思う - バリアフリー化 - バリアフリー充実、人に優しい - 地域の人材を活かす - 現在のロビーのようなオープンスペースを確保したい - 中央にロビーを設け放射線状に部屋を配置（円形の建物） - となりにコンビニ - ロビー空間を活かす（現施設のよい点を残す）

3

ワークショッップの進め方

3. ワークショップの進め方

ワークショップとは？

- さまざまな立場の人々が集まって、
- 自由に意見を出し合い、
- 互いの考えを尊重しながら、
意見や提案をまとめていく場です。



ワークショップのマナー、基本ルール

- 相手の意見を最後まで聞く、さえぎらない。
- 相手の意見を否定しない、尊重する。
- 話し合いの時間を独り占めしない。

（話し合いの機会を大切にする、発言はできるだけ簡潔にする等）

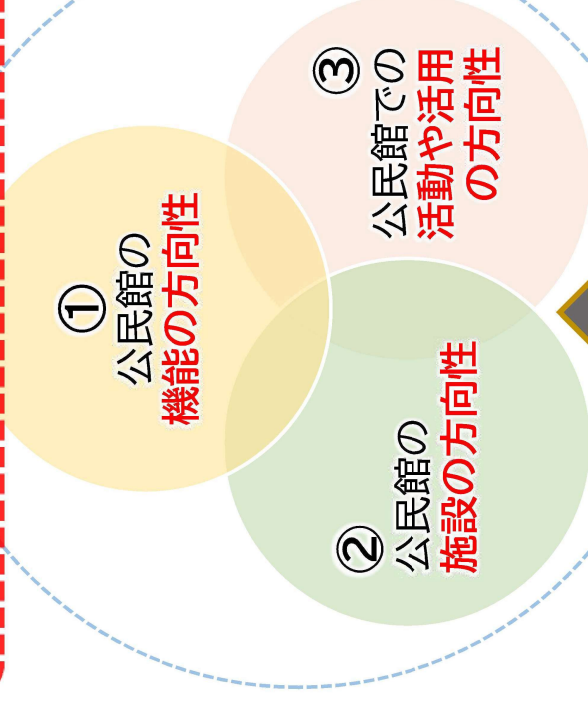
3.ワークショップの進め方

今日の話し合いのテーマ

《第1回》

地区の公民館が重要な役割を担う
公民館の再整備を**地域課題の解決**や
魅力づくりにつなげる

将来の公民館のあり方、将来イメージの検討



公民館の老朽化への対応

《第2回》

今日の話し合いは
これらの内容を確認

【3地区共通】

- ・再整備の基本方針
- ・民間活力の導入方針
- ・事業スケジュール等

【周南】

- ・再整備のコンセプト
- ・立地、敷地【**非現地**】
- ・導入機能、諸室、設え
- ・再整備イメージ等

【小系】

- ・再整備のコンセプト
- ・立地、敷地【**現地及び周辺**】
- ・導入機能、諸室、設え、複合化
- ・再整備イメージ等

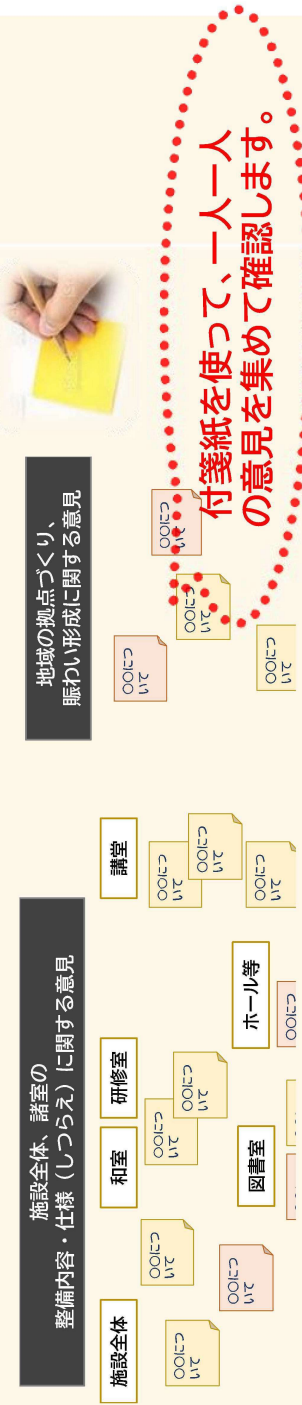
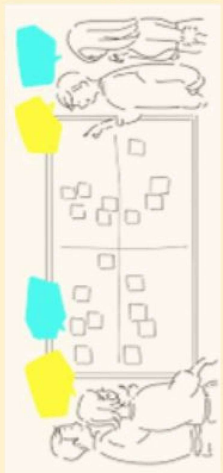
【小櫃】

- ・再整備のコンセプト
- ・立地、敷地【**現地**】
- ・導入機能、諸室、設え、複合化
- ・再整備イメージ等

基本計画
素案

3.ワークショップの進め方

タイムテーブル

工程	内容	所要時間
自己紹介	グループに分かれて各自簡単な自己紹介	5分
意見交換	テーマに関する意見交換 【テーマ①:再整備のコンセプト案を確認・検討しよう】 【テーマ②:施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう】  The diagram illustrates the opinion exchange process. It shows a central box labeled '施設全体、諸室の整備内容・仕様（しつらえ）に関する意見' (Opinions on facility overall, room renovation content/specifications). Surrounding this are boxes for '施設全体' (Facility Overall), '和室' (Washitsu), '研修室' (Kenkyushitsu), '講堂' (Koudo), '図書室' (Tohosetsu), and 'ホール等' (Hall etc.). Each box contains a sticky note with 'OOについで' (Following OO). To the right, a hand is shown writing on a yellow sticky note, with a red dotted line connecting it to a larger red dotted line containing the text '付箋紙を使って、一人一人の意見を集めて確認します。' (Using sticky notes, we will collect and confirm everyone's opinions.).	65分
結果発表	グループの代表者により各グループ結果について発表  The illustration shows a group of people in a meeting room. One person is standing and presenting to a group of seated people. A red dotted line encircles the text '全体でみんなの意見（今日の成果）を確認します。' (We will confirm everyone's opinions (today's results) as a group.).	10分

3.ワークショップの進め方

①再整備のコンセプト-基本目標 案を確認・検討しよう。

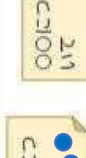
再整備のコンセプト

〔 小櫃の場合 〕

豊かなコミュニティのもと 安心して住み続けられるまちを創る拠点

- 子どもから高齢者まで誰もが使いやすい、様々な活動を受け容れる施設の造り
- 地域の“憩いの場”として気軽に立ち寄り、集える空間づくり
- 診療所の併設による保健衛生・健康づくり機能の強化

キーワードに対して、特に大事だと思う点、補足が必要などの意見を書き出します。

コンセプトのキーワード	特に大事だと思う点、 キーワードに対する思いなど	キーワードに 対する共感
豊かな コミュニティ	  	 
安心して住み続けられる まちを創る拠点	  	
子どもから高齢者まで 誰もが使いやすい	    	  
様々な活動を 受け入れる	 	

※意見●やキーワード●に対する共感をシールで示します。

3.ワークショップの進め方

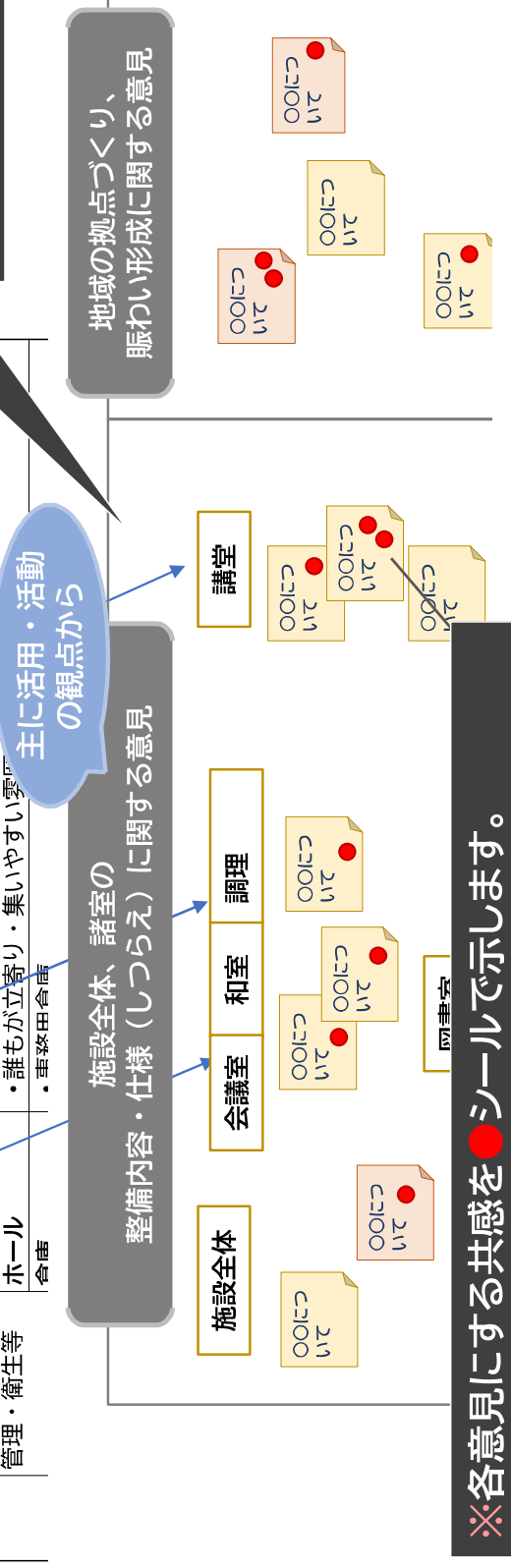
②施設の具体的な整備方針案を確認・検討しよう。

導入機能等(案) [小櫃の場合]

施設①	機能分類	主な諸室	整備の考え方
	公民館機能 (生涯学習機能、 集会機能 等)	講堂	・集会や講演会等の利用として地域住民が集える充分なスペースの確保 ・卓球等の屋内スポーツができる造り ・発災時の避難場所として安心して過ごしやすい空間
		会議室1 (研修室)	・会議や多様なサークル活動等が可能な構造 ・部屋数は1部屋
		会議室2 (兼和室)	・会議室に畳表を設置しての兼用可 ・1部屋には茶室の機能を設ける ・発災時には具合の悪い方の救護所等として利用できるよう、講堂と同じフロア・近いレイアウトで検討
		会議室3 (兼調理実習室)	・サークル利用だけでなく、災害時の活用も想定した造り
	図書館機能	図書室	・中央図書館分室(図書サービスコーナー)として1500冊程度の蔵書
	行政窓口機能	地域市民センター	・支所機能を継承。事務室は公民館と兼用
	管理・衛生等	ホール 倉庫	・誰もが立寄り・集いやすい空間 ・車致田倉庫

整備方針案の参考イメージ
(ワークショップ検討用の機能・
諸室等の内容説明補足)

※「計画素案」の方針内容について、主に施設の活用・活動のしやすさの観点から、確保したい性能や施設のしつらえ、配慮が必要な点などについて、意見を出し合います。



※各意見にする共感を●シールで示します。

4

基本計画素案の説明

4.基本計画素案の説明

君津市公民館等再整備の基本方針

【基本理念】

“人と地域をつなぐステーション” としての公民館・拠点施設

公共施設としての基本性能を 充足した施設整備

- 誰もが安心・安全・快適に利用でき、安定的な行政サービスを提供し続けられる施設を目指します
- DX等の技術を活用した行政サービスの質の向上を図ります
- 将来的な施設管理コスト削減のため、既存施設の複合化や現存する公共用地を活用した整備に努めます

防災拠点機能の強化

- 地区の避難場所として、耐震性の確保された建物に再整備します
- インフラ途絶時でも機能する防災拠点とするために、発電機・蓄電器の導入や、避難場所として十分なスペースの確保等を検討します

柔軟な利活用が可能な施設整備

- シンブルで実用性の高い施設を基本としつつ、多様なニーズに対応できる設えを効率的・機能的に再整備します
- 施設内レイアウトは、フレキシブルな利用が可能な、機能を固定しないエリアの配置や運用方法についても検討します

公民館等再整備を契機とした地区の拠点形成

(小糸地区・小櫃地区)

- 生涯学習施設として多世代に利用される公民館を軸に、地区の公共施設の再編（複合化・集約化）を図ります
- 多様な目的で訪れる人々が出会うことにより新たな活動や交流が生まれる、地域の“人”と共に成長する拠点づくりを進めます

4.基本計画素案の説明

君津市公民館等再整備の基本方針

施設の再整備の考え方 -建物の造りについて-

①シンプルで、実用性の高い施設

- 他用途への転用が可能なS I（スケルトンインフィル）の考え方のもと、シンプルな施設構成としつつ多様な社会教育、文化、スポーツ・レクリエーション活動を受け容れる造りとしています。
- 日常メンテナンスや施設内レイアウトの変更の容易性など実用性を重視することとします。

②誰もが利用しやすい施設

- バリアフリーやユニバーサルデザインなどを考慮した施設の造りとし、誰もが使いやすい施設とします。
- ホール等のようなフリースペース的空間を設け、誰もが気軽に立ち寄れて、用事がなくとも憩い・くつろげる環境を整備し、にぎわいや交流を生む拠点施設とします。

③地球環境に優しい施設

- 君津市の「環境グリーン都市」実現に向け、「第5次君津市地球温暖化対策実行計画」の施策に従って、主に以下の事項に取り組みながら再整備を行うものとします。
- ライフサイクルコストの低減につなげるべく、再整備後の運営維持管理を考慮したエネルギー利用等の最適化を図るものとします。

施策		取組 ★：重要取組
(1)省エネルギーの推進		省エネルギー機器等の導入推進 ★
		省エネルギー建築の推進
(2)再生可能エネルギー利用の推進		市有施設・遊休地における再生可能エネルギー設備等の導入推進 ★
		低炭素電力の利用推進
(5)吸収源対策の推進		森林資源の活用
(7)デジタル技術の活用による脱炭素化の推進		DXの推進

4.基本計画素案の説明

君津市公民館等再整備の基本方針

民間活力の導入 -公民館再整備における官民連携の推進-

公民館等の再整備においては、民間活力により効率的・効果的な整備を進めるとともに、地域のポテンシャルを活かしたにぎわい・魅力づくりを官民連携で検討していきます。令和5年8月～9月に民間事業者等を対象としたサウンディング調査を実施しました。調査結果から、公民館等再整備における民間活力の導入方針を以下の通りとします。

■ 民間活力導入の基本方針

- 公民館等再整備事業を包括して発注（バンドリング）するなど、事業者の参入意欲向上や行政コストの縮減等につながる手法を検討します。
- 地域の利便性向上に資する事業を施設内または敷地内に導入することを検討します。

※施設の整備～運営維持管理において民間活力の導入を想定しますが、公民館事業についてはこれまで通り君津市の直営により運営するものとします。

官民連携とは

- 公共事業、例えば公共施設の設計・工事・運営維持管理を民間事業者のノウハウを取り入れながら進めることです。
- 官民連携により、従来の公共サービスと民間サービスが融合することで、利用者の利便性やサービスの質の向上につながります。

4.基本計画素案の説明

新しい小櫃地区拠点施設 の再整備コンセプト

豊かなコミュニティのもと 安心して住み続けられるまちを創る拠点

- 子どもから高齢者まで誰もが使いやすい、様々な活動を受け容れる施設の造り
- 地域の“憩いの場”として気軽に立ち寄り、集える空間づくり
- 診療所の併設による保健衛生・健康づくり機能の強化

第1回ワークショップで挙げたキーワード等

子どもの居場所、 遊び場

- 子どもが気楽に寄り道できて遊べるスペース
- 放課後に立寄れる場所
- 子どもの遊び場づくり
- 子ども向けの塾の開催

地域活動拠点としての 充実

- 福祉活動に利用できる部屋
- 通信設備（インターネット）の充実
- 防災活動拠点としての充実

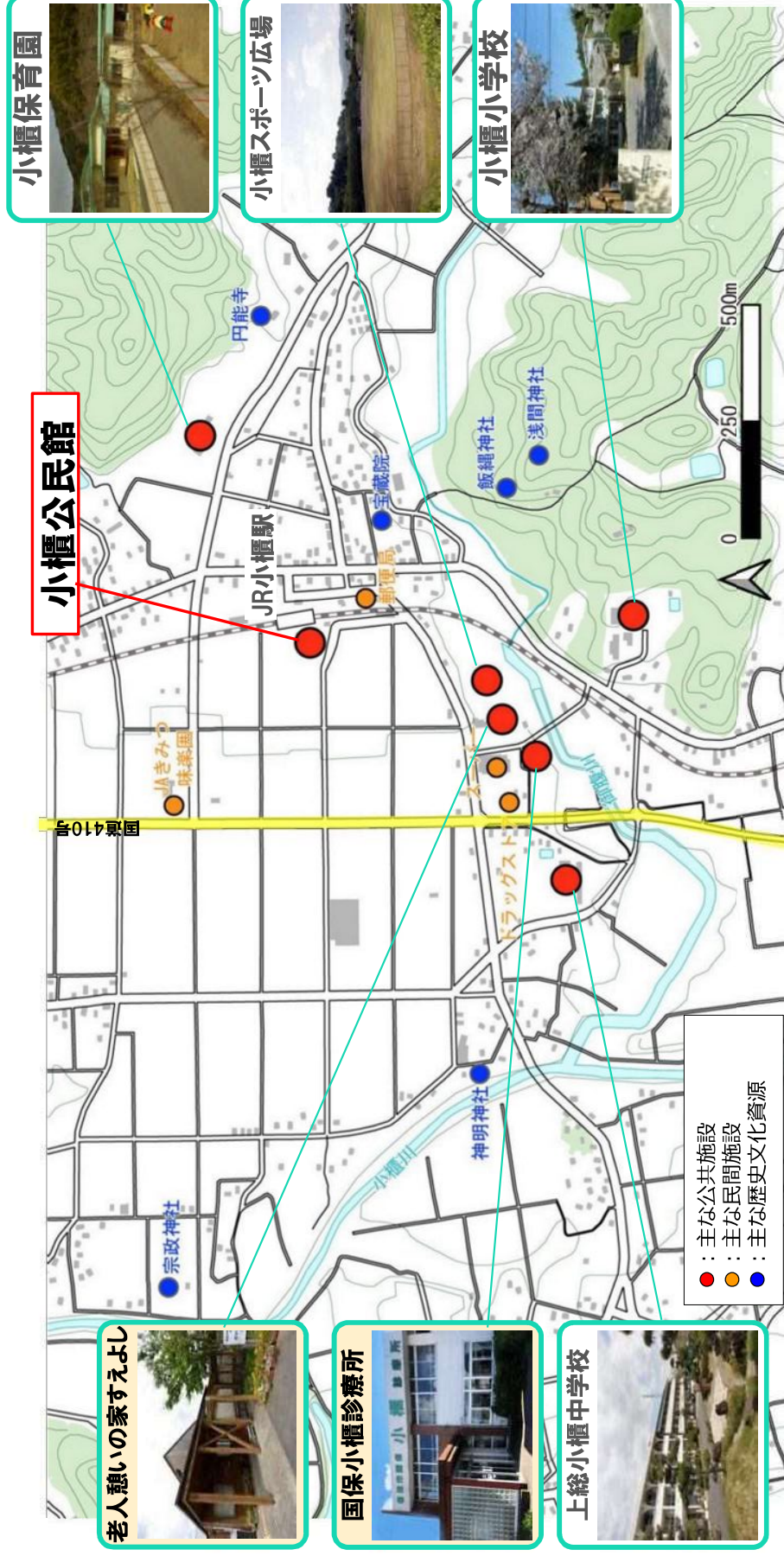
誰もが使いやすい、 気軽に立ち寄れる

- 施設内のバリアフリー化、手すりの設置
- 机やイスの出し入れが簡単にできる
- お茶を飲みながらくつろげる、明るい空間
- 移住してきた人にもやさしい

4.基本計画素案の説明

新しい小櫃地区拠点施設の立地の考え方

現在の小櫃公民館の立地を基本とし、周辺施設の機能を
一体的・効率的に配置することにより拠点エリアの形成を図る。



4.基本計画素案の説明

新しい小櫃地区拠点施設の導入機能等（案）

	機能分類	主な諸室	整備の考え方
施設①	公民館機能 (生涯学習機能、 集会機能 等)	講堂	・集会や講演会等の利用として地域住民が集える充分なスペースの確保 ・卓球等の屋内スポーツができる造り ・発災時の避難場所として安心して過ごしやすい空間
		会議室1 (研修室)	・会議や多様なサークル活動等が可能な構造 ・部屋数は1部屋
		会議室2 (兼和室)	・会議室に畳表を設置しての兼用可 ・1部屋には茶室の機能を設ける ・発災時には具合の悪い方の救護所等として利用できるよう、講堂と同じフロア・近いエリアアウトで検討
		会議室3 (兼調理実習室)	・サークル利用だけでなく、災害時の活用も想定した造り
	図書館機能	図書室	・中央図書館分室(図書サービスコーナー)として1500冊程度の蔵書
	行政窓口機能	地域市民センター	・支所機能を継承。事務室は公民館と兼用
	管理・衛生等	ホール 倉庫	・誰もが立寄り・集いやすい雰囲気 ・事務用倉庫
施設②	診療所機能 (医療・保健)	トイレ	・バリアフリーを考慮した造り ・おむつ交換台や授乳室等、子育て世代が利用しやすい施設設備の検討
		小櫃診療所	・拠点施設への複合化、併設を検討する
	災害拠点機能 —	防災倉庫	・講堂から利用しやすい配置
その他		駐車場	・60台程度。移動図書館の駐停車場所や、地区文化祭等のイベント利用も想定。 ・雨天時に送迎利用者や図書(中央図書館より搬入出)が濡れないよう、ポーチに面する位置に配置する

4.基本計画素案の説明

基本的な考え方

- シンブルで実用性の高い施設を基本としつつ、多世代の多様なニーズに対応できる設えを効率的・機能的に再整備します。
- 施設内レイアウトの検討に当たっては、フレキシブルな利用が可能な、機能を固定しないエリアの配置や運用方法についても検討します。

参考イメージ



4.基本計画素案の説明

講堂

- 集会や講演会等の利用として地域住民が集える充分なスペースの確保
- 卓球等の屋内スポーツができる構造
- 発災時の避難場所として安心して過ごしやすい空間



参考イメージ

4.基本計画素案の説明

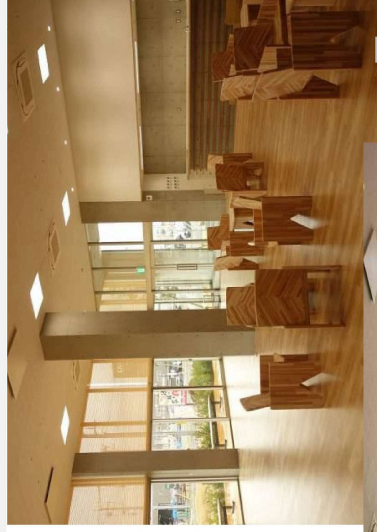
ホール（ロビー）

- 誰もが立寄り・集いややすい雰囲気

参考イメージ



オープンで自由に使える雰囲気
(参考：野毛青少年交流センター)



市民活動等の展示も可能なスペース
(参考：千葉市生涯学習センター)



コミュニティカフェとしての活用
(参考：金田地域交流センター)

第1回ワークショップで挙がったキーワード等

入口付近に分かりやすいPRを

自習できる場所

オープンなスペースの確保

子どもが放課後に友達とゆっくり話せる場所

懇親会等の集いの場

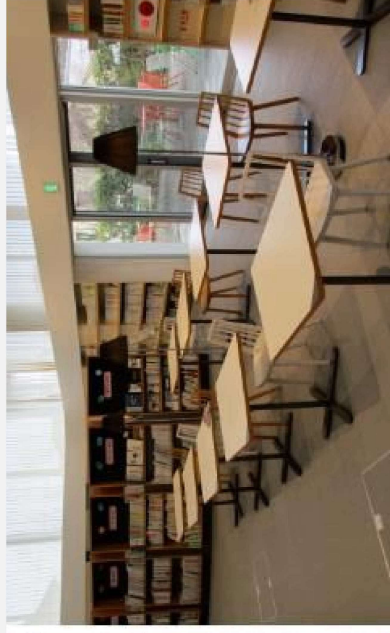
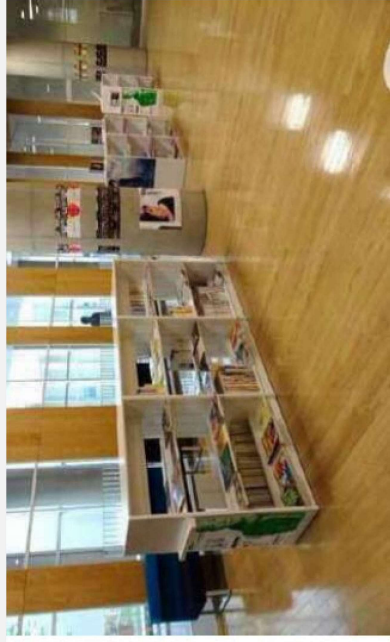
交流できるフリースペース

4.基本計画素案の説明

図書室

- ・中央図書館分室(図書サービスコーナー)として1,500冊程度の蔵書

参考イメージ



ホール等の自由に使える空間に
面して気軽に本を手に取り、
読書ができる
[左：長野市民館、
右：竹田市立図書館]



床に座って遊びながら絵本を読むことができる
(参考：こども本の森 中之島)

第1回ワークショップで挙げたキーワード等

使いやすい・明るく

開放的で明るい場所

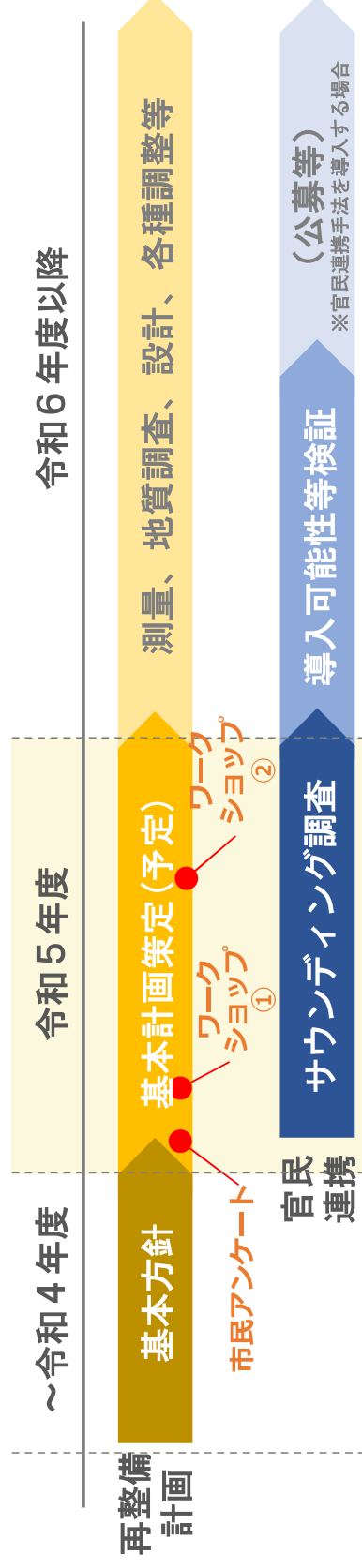
子ども向け図書（絵本等）の充実

学習できる場所

4.基本計画素案の説明

事業スケジュール（予定）

- 本年度中に基本計画を策定します。
- 来年度より、官民連携による計画の具体化を進めます。
- 3地区の施設整備を並行して進めることは難しいため、段階的に整備を進めるものとします。



令和 5 年度君津地方社会教育委員研修会開催要項

1 趣 旨

2020 年 4 月の緊急事態宣言発出以降、3 年間にわたるコロナ禍は、令和 5 年 5 月 8 日に新型コロナウイルスが「5 類感染症」へと位置づけが変わったことを受け、収束を迎えることになった。

この間、君津地方においてもコロナ禍の影響を受け、「学びの機会」が大きく揺さぶられる状況を経験した中で、令和 4 年度には、「見えないウイルスから見えてきたこと」と題した研修会を実施し、いま必要な社会教育のあり方について各市社会教育委員と職員が共に学び合う機会を設けた。

現在、君津地方の社会教育行政を取り巻く状況は、大きな変化の途上にあり、社会教育委員の役割はますます重要なものになっている。

そこで、今回は、改めて各社会教育施設がその地域にある意味を捉え直すと共に、社会教育行政の「これから」に向けた社会教育委員の役割について学ぶ機会として研修会を実施したい。

2 テーマ 「社会教育行政の「これから」に向けた社会教育委員の役割」

3 日 時 令和 5 年 8 月 22 日（火）午後 2 時から 4 時 30 分まで

4 会 場 君津市生涯学習交流センター 多目的ホール
(住所：君津市久保 2-13-2 TEL：0439 (50) 3980)5 講 師 長澤 成次 氏
(千葉大学名誉教授、元放送大学千葉学習センター所長)6 対象者 木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市社会教育委員及び関係職員
50 名程度

7 主 催 君津地方社会教育委員連絡協議会

8 内 容 (1) 各市報告
「君津地方の社会教育を取り巻く状況と社会教育委員の取組」
(2) 講師講演
「社会教育行政の『これから』に向けた社会教育委員の役割」
(3) 感想、意見交流
「より充実した社会教育委員活動に向けて」

9 日程（150分）

時間	項目	内容など
5 分	開会行事	主催者あいさつ、趣旨・日程説明等
10 分	【木更津市】 ・社会教育を取り巻く状況 ・木更津市社会教育委員の取組	報告：山下 理 報告：木更津市社会教育委員会 議長
10 分	【君津市】 ・社会教育を取り巻く状況 ・君津市社会教育委員の取組	報告：柴田 学 報告：君津市社会教育委員会 委員長
10 分	【袖ヶ浦市】 ・社会教育を取り巻く状況 ・袖ヶ浦市社会教育委員の取組	報告：柳井 健 報告：袖ヶ浦市社会教育委員会 委員長
10 分	【富津市】 ・社会教育を取り巻く状況 ・富津市社会教育委員の取組	報告：吉村 直 報告：富津市社会教育委員会 委員長
65 分	【講演】 「社会教育行政の『これから』に向けた社会教育委員の役割」	講師：長澤 成次 氏 (講義 60 分、質疑 5 分)
10 分	【休憩】	
20 分	【感想、意見交流】 「より充実した社会教育委員の活動に向けて」	・参加者 4～6 名でグループをつくる ・各市の状況、講師報告を受け、委員、職員のそれぞれの立場の役割、取り組みについて検討する。
5 分	グループ報告・全体意見交換	
5 分	【講師ふりかえり】	講師：長澤 成次 氏
	閉会行事	・連絡事項伝達 ・アンケート記入

* 社会教育を取り巻く状況について

木更津市：公民館使用料有料化について

君津市：清和地区拠点整備における公民館の再整備状況

袖ヶ浦市：公民館の市長部局移管計画の経緯

富津市：富津市図書館の設置に関する経緯

第58回千葉県社会教育振興大会開催要項

1 趣 旨

社会教育は、昭和24年の社会教育法制定以来、学校教育以外における学習の機会を提供し、個人の教養の向上や生活文化の振興のみならず、人々の信頼関係や相互支援の気風をつくるなど、生活基盤を形成する「学び」の実践を核とした地域づくりに寄与してきました。

今日、人生100年時代、Society5.0^{※1}の到来、DX^{※2}の急速な進展、新型コロナウイルス感染症への対応など、社会は急速な変化を続けており、VUCA^{※3}の時代とも呼ばれる予測困難な時代を迎えています。また、人口減少、少子高齢化、核家族化、未婚化・晩婚化、これらを背景とした単身世帯や単身高齢者の増加といった社会環境の劇的な変化が進み、地域社会を支える地縁・血縁といった人と人との関係性や「つながり」は希薄化しています。

こうした社会の急速・複雑な変化への対応が求められる中、社会教育には、学校教育で取り扱われる内容の範疇に留まらない、社会の変化に即応した様々なテーマを幅広く学び、主体的に学ぶ意思を持ち、教え学び合う当事者となり、その学習の成果が地域における活動に還元されるような循環が生まれることが求められています。

そこで、社会教育委員をはじめ社会教育関係者が一堂に会し、「学びを通じた『人づくり・つながりづくり・地域づくり』の循環」をテーマに、社会教育の振興と生涯学習の推進に向けて研究を深めるとともに、一層の進展を目的として、本大会を開催します。

※1 Society5.0：サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)

※2 DX：「デジタルトランスフォーメーション」の略。デジタル技術に社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること。

※3 VUCA(ブーカ)：Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字

2 テーマ 「学びを通じた『人づくり・つながりづくり・地域づくり』の循環」

3 期 日 令和5年10月4日(水)

※1 Society5.0：参考

4 会 場 千葉県総合教育センター
(千葉県美浜区若葉2-13)
メディア教育棟1階 大ホール



※2 DX：参考

5 主 催 千葉県社会教育委員連絡協議会



6 参加者 県内社会教育委員、事務担当者

※3 VUCA：参考

7 日 程 受付 9：30～9：50



○ 社会教育専門講座 10：00～11：30

「生涯学習実践研修会」

講 師 法政大学教授 久井 英輔 氏

テーマ 学習成果を地域に生かす

(1) 開会行事 11:40～12:15

- ① 主催者挨拶
- ② 千葉県社会教育委員連絡協議会表彰
- ③ 被表彰者代表挨拶
- ④ 来賓祝辞
- ⑤ 祝電披露

～ 昼食・休憩 ～

(2) 事例発表 13:30～14:30

- ア 君津地区 「社会教育委員と職員で紡ぐ研修会」
発表者 君津市教育部生涯学習文化課
社会教育主事 柴田 学 氏
- イ 市原市 「いちほら市民大学での取り組み ～学びを活かす生涯学習～」
発表者 市原市社会教育委員会
委員長 大浦 善博 氏
市原市生涯学習センター
社会教育主事 松下 隼人 氏
- ウ 千葉市 「コロナ禍におけるオンライン事業の取り組みについて」
発表者 千葉市生涯学習センター
マネージャー 野 哲也 氏

※ 発表時間：各15分 質疑：各3分

(3) 分科会 14:45～16:00

- 第1分科会 「地域課題に向き合う社会教育委員と行政の連携」
- 第2分科会 「地域の学びを支える社会教育委員の取組」
- 第3分科会 「現代的課題解決のための社会教育委員の取組」

(4) 閉会行事 16:10～16:30

- ア 分科会報告
- イ 決議文採択
- ウ 閉会の言葉

8 参加費 1人 3,000円 (昼食代を含む)

9 その他

- (1) 各市町村とも多くの参加をお願いします。(表彰者を除く3～5名)
- (2) 駐車場については、他の研修等の状況により当日混雑することもありますので、時間に余裕をもってお越しください。

第 54 回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会 令和5年度栃木県社会教育委員協議会研修会 開 催 要 項



1 研究主題 今、改めて考える「ふれあい」をとoshitaつながりづくり・地域づくり
～ウェルビーイングの実現に向けた社会教育委員の役割～

2 開催趣旨

現在、グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、多文化共生社会の形成や「Society5.0」の実現に向けた未来技術の活用など、多様化・複雑化する諸課題への対応が求められています。さらに、新型コロナウイルス感染症は、地域社会における人と人との関係性や地域コミュニティに大きな変化をもたらしました。ポストコロナ期における新たな学びの在り方を考える上で、一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイング（well-being）の理念の実現を目指すことが重要です。

栃木県では、幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動を「ふれあい学習」と称し、心豊かな青少年の育成や地域で子どもを育む環境づくりを進めています。新型コロナウイルス感染症の影響を乗り越え、地域コミュニティを再構築していくためにも、人と人との「ふれあい」の価値を再確認し、学びの場を通じて地域住民の「つながり」をつくり、ウェルビーイングを実現するための具体的方策を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

3 期 日 令和5年11月21日（火）～ 22日（水）

4 会 場 栃木県宇都宮市内 2会場
・栃木県総合文化センター （〒320-0033 栃木県宇都宮市本町1-8）
・ホテルニューイタヤ （〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り2-4-6）
【1日目】全体会 栃木県総合文化センター メインホール
【2日目】分科会
第1分科会 栃木県総合文化センター サブホール
第2分科会 同上 特別会議室
第3分科会 同上 第1会議室
第4分科会 ホテルニューイタヤ 天平の間
第5分科会 同上 同上

5 参加費 3,500円（参加資料代等）

6 主催・共催 一般社団法人全国社会教育委員連合、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会、
第54回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会実行委員会、
栃木県社会教育委員協議会

7 後 援 栃木県、宇都宮市、栃木県教育委員会、栃木県市長会、栃木県町村会、
栃木県市町村教育委員会連合会、栃木県社会教育振興協議会、
栃木県公民館連絡協議会

8 参加対象 関東甲信越静各都県・政令指定都市・区市町村の社会教育委員、社会教育担当職員
及び社会教育関係者、生涯学習・社会教育に関心のある方 等

9 日 程

	10:00	11:00	11:30	12:30	13:00 13:10	14:30 14:40	16:00 16:20	18:00
第1日目 11月21日(火) 【全体会】				受付 ※12:00～12:20 アトラクション	開 会 行 事	記念講演	シンポジウム	閉 会 行 事 移動 情報交換会
第2日目 11月22日(水) 【分科会】	9:20	10:00	12:30					
		受付	分科会 (分科会ごとに開会)					

10 大会内容

【11月 21 日(火)】(全体会)

11:30～

受付

12:00～12:20 歓迎アトラクション 白鷗大学ハンドベルクワイア

12:30～13:00 開会行事

13:10～14:30 記念講演

演題：「作新学院高等学校硬式野球部 甲子園優勝の軌跡
～『ふれあい』をとoshitaつながりづくりの実践～」

講師：第 98 回全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園 2016）優勝校
作新学院高等学校教諭（硬式野球部監督） 小針 崇宏 氏

14:40～16:00 シンポジウム

テーマ「今、改めて考える『ふれあい』をとoshita
つながりづくり・地域づくり」
～ウェルビーイングの実現に向けた社会教育委員の役割～

[コーディネーター]

中村 祐司 氏（宇都宮大学地域デザイン科学部教授）

[パネリスト]

生井 泉 氏（親学習チーム日光代表）

菊地 孝行 氏（大田原市地域学校協働活動推進員）

濱野 将行 氏（一般社団法人えんがお代表理事）

井上 昌幸 氏（栃木県総合教育センター生涯学習部長）

16:00～16:20 閉会行事

【11月 22 日(水)】(分科会) 10:00～12:30(受付 9:20～)

＜第1分科会＞ テーマ:ウェルビーイングの実現に向けた社会教育の取組 助言者:帝京大学経済学部教授 山口 泰史 氏	
発表者・テーマ・内容	【神奈川県横浜市】 小野寺 紀子 氏（横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課長） 「第 33 期横浜市社会教育委員会議提言 ～視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）に基づく取組の方向性について～」 ◇誰もが読書をできる社会を目指して「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（以下、読書バリアフリー法）」が令和元年に成立しました。横浜市社会教育委員会では、「読書バリアフリー法に基づく取組の方向性について」をテーマに、協議が行われ、令和 5 年 2 月に提言がまとめられました。本提言、及び本市の読書バリアフリーの取組状況について事例発表します。
	【栃木県佐野市】 堀川 悦郎 氏（佐野市社会教育委員会議副委員長） 「佐野市第三のグルメ 佐野黒から揚げ誕生の秘話～地域の魅力の発見、つながりづくりを目指して～」 ◇佐野市のパパたちは、知恵とパワーを結集して、パパたちだって何かできるはず！と、未来の子供たちに向けて地域の魅力を再発見し、地域のつながりづくりを目指して新たな地域商品を創り出す！パパプロ e 街佐野奉行所はそんなビジョンをもった、未来のためのプロジェクト！現在の活動内容も併せて発表します。

＜第2分科会＞ テーマ:子ども・若者が地域課題解決に取り組む機会の充実 助言者:宇都宮共和大学シティライフ学部特任教授 陣内 雄次 氏	
発表者・テーマ・内容	【埼玉県白岡市】 野口 英夫 氏（「町ぐるみん白岡」会長・白岡市社会教育委員議長） 「町ぐるみん白岡の活動について」 ◇子どもたちの健全な成長の支援や地域の教育・子育て関係団体の連絡調整役となって活動の活性化を支援したり、子育て中の親へ学習機会を提供したりしながら、家庭・地域・学校などの関係の円滑化を図っている「町ぐるみん白岡」の活動を紹介します。
	【栃木県栃木市】 荒川 里子 氏（栃木市社会教育委員会議委員） 「地域ぐるみで子どもたちの『生きる力』を育む教育システムの推進」 ◇学校・家庭・地域の連携による「とちぎ未来アシストネット」として、市民が学んだ成果を地域や児童・生徒に還元する取組が行われ、児童・生徒は地域の行事やイベントに参加し、地域貢献活動を行う双方向の取組を紹介します。

<第3分科会> テーマ:今後求められる社会教育委員の役割 助言者:作新学院大学女子短期大学部名誉教授 青木 章彦 氏	
発表者・テーマ・内容	【神奈川県愛川町】 萩原 庸元 氏(愛川町社会教育委員会議議長) 「愛川町を愛する～ふるさと愛川の豊かさと愛着を感じる社会教育の振興をめざして～」 ◇「人のつながり」:愛川町を愛する人材を育成するという理念のもと、これまでの事例をまとめて紹介し、地域総ぐるみで子どもたちを育てる体制づくりをさらに進めます。 「文化の継承」:愛川町の歴史やよさを子どもたちや町内外の方に伝えていこうと、調べたことを紙芝居やスライドにまとめて発信します。
	【栃木県宇都宮市】 遠藤 敦子 氏(宇都宮市清原生涯学習センター専任) 「清原の魅力を発信しよう!! ～わがまち 清原を知ろう～」 ◇LRT開通を見据え、地区内における観光振興を図るため、地域住民が地域の歴史・伝統・民話・農業など地域資源を幅広く学び、清原の魅力を発信できる人材を育成する講座を開催しました。
<第4分科会> テーマ:地域資源を生かす社会教育の取組 助言者:足利大学工学部准教授 大野 隆司 氏	
発表者・テーマ・内容	【千葉県富津市】 高橋 栄二 氏(富津市社会教育委員会議委員長) 伊藤 伸久 氏(富津市教育委員会事務局生涯学習課社会教育主事) 「図書館のない市に図書館ができた!～公民館カフェから飛び出す市民との協働～」 ◇令和3年に市制施行50周年を迎えた富津市は「図書館のない市」としても有名でした。「まず今ある公民館図書室を十分に活用しよう」という社会教育委員の提言から動き始めたちょうどそのとき、「図書室を整理させてください」という子育て世代の市民の声が。これをきっかけにできた市民グループとの協働は、平成30年度「ちばコラボ大賞」を受賞。そんな市民の熱もあり、ついに令和5年4月、市立図書館が開館しました。
	【栃木県高根沢町】 小堀 秀一 氏(高根沢町社会教育委員委員長) 斎藤 洋一 氏(高根沢町教育委員会事務局生涯学習課係長) 「未来につながる 人づくり まちづくり～青少年の健全育成に向けた取組～」 ◇高根沢町では、地域みんなで子どもを育てるため、町内の各種団体、関連施設、企業と連携して、体験・交流活動を実施し、ふれあい交流活動を推進しています。「きらきらフェスタ」や「夏休み!たんたん探検隊」など、青少年の健全育成に向けた「一人ひとりが主役となる、人づくり・まちづくり」を目指した取組を紹介しします。
<第5分科会> テーマ:「命を守る」社会教育 助言者:宇都宮大学地域デザイン科学部准教授 石井 大一郎 氏	
発表者・テーマ・内容	【静岡県裾野市】 小田 圭介 氏(裾野市社会教育委員長) 「抱え込まない社会教育～多様な主体による関わりで隙間を埋める～」 ◇東地区おやじの会による「何にもしない合宿(月に一度、100人規模のお泊り会)」や、「体育館“解”放(ただ体育館を貸し切って開放するだけの場)」、消防東分団による「消防団クラブ(消防団員による多種目スポーツ教室)」など、地域の中で多様に人と人を繋げその関係を日常化していく実際の事例を紹介しながら大切にしている視点をお伝えします。
	【栃木県真岡市】 横山 充 氏(真岡市社会教育委員会議委員長) 飯野 滋生 氏(NPO法人ま・わ・た代表) 成田 雪子 氏(NPO法人ま・わ・た 多機能型事業所 そらまめ所長) 「家庭と地域とのつながり(多様な主体との連携・協働による活動の充実)」 ◇NPO法人ま・わ・たは、真岡市市民活動推進センターの指定管理者であり、フードバンク、地域食堂の運営、図書館プロジェクトのサポートなどを行っています。また、各種活動において、小中学校、こども家庭総合支援拠点、図書館、同地域のNPO法人など、行政を含めた多様な主体と協働し、交流活動を通じた、つながりづくり・地域づくりに貢献しています。 また、真岡市社会教育委員会では、その活動の報告を受け、各団体との連携を図っています。

11 開催方法

(1) 開催方法について

- ・全体会は、対面とライブ配信との併用で行います。
- ・分科会は、対面で行います。ライブ配信は行いません。

(2) 参加方法について

会場参加とライブ配信による参加の二通りの方法があります。

① 会場参加を希望される方

大会申込みサイトからお申込みください。団体でのお申込みも可能です。

② ライブ配信による参加を希望される方

大会申込みサイトから個人(一人)で申し込んでください。

ライブ配信による参加を申し込まれた方へは、事前に視聴用の専用アドレスを配付します。

申込登録された住所へ、事前に大会冊子を郵送します。また、大会終了後に大会報告書を郵送します。

③ 参加方法の変更を希望される方

会場参加申込者で、都合により会場へ出かけられなくなった場合、ライブ配信による参加に変更することができます。

参加方法を変更する場合は、必ず申込受付窓口(東武トップツアーズ)へ大会の8日前までにメールで御連絡ください。変更締切日後に御連絡いただいた場合、宿泊費等の取消料が発生します。また、事前に大会冊子が届かないことがあります。

なお、ライブ配信による参加申込者が会場参加へ変更することはできません。

		会場参加申込者	ライブ配信による参加申込者
1	参加費用	3,500 円	3,500 円
2	大会冊子の配付	○ (会場で配付)	○ (郵送により配付)
3	ライブ配信用アドレスの配付	○	○
4	全体会への参加	○ (会場)	○ (ライブ配信)
5	分科会への参加	○ (会場)	×
6	大会報告書の配付	希望者は別途購入	○ (郵送)

(3) ライブ配信視聴における注意事項

ライブ配信による参加を希望される方は、以下の注意事項を確認いただき、御了承の上、お申込みください
ますようお願いいたします。

- ・ 高速で安定したインターネット回線、ならびに Wi-Fi 環境が必要です。
- ・ 視聴に関する通信費用は参加者様に御負担いただきます。
- ・ ライブ動画配信はデータ通信量が多くなることが想定されます。スマートフォンで視聴される場合は Wi-Fi の御利用を推奨します。
- ・ インターネット回線の接続が不安定な場合、一時停止や映像の乱れなどが起こり、うまく視聴できないことがあります。その他、不慮の障害等で一時停止や映像の乱れなどが起こる可能性がありますことを御了承ください。
- ・ 固定カメラで撮影した映像の配信です。字幕や手話通訳等の対応がありませんので御了承ください。
- ・ 講師が使用するスライド資料について、配信上でスライド内容を確認することは難しい場合があります。基本的には音声で確認いただくことになりますことを御承知おきください。講演等の内容の詳細は後日送付する大会報告書で御確認いただくこととなります。
- ・ ライブ配信を途中から視聴した場合はその時点からの内容となります。巻き戻しての再生はできません。
- ・ 「アーカイブ動画」の配信は行いませんので、当日の該当時間後に視聴することはできません。御了承ください。

12 駐車場について

(1) 乗用車で御来場の方

- ・ 全体会及び分科会のどちらの会場も、御来場者様用の駐車場はありません。できるだけ公共交通機関を御利用ください。
- ・ 栃木県総合文化センターには来場者用の駐車場がありません。周辺の有料駐車場を御利用いただくことになりますので御了承ください。
- ・ ホテルニューイタヤには駐車場がありますが、台数に制限があるため、駐車いただけない場合もあります。その場合、周辺の有料駐車場を御利用いただくことになりますので御了承ください。
- ・ 有料駐車場の駐車料金は、御来場者様が御負担ください。

(2) 貸切バスで御来場の方

- ・ 御希望の方は、各都県・政令指定都市の社会教育委員連絡協議会を通してお問合せください。